科目名		エンジン構造	I	学科名		国際自	動車整備科		学年 1学年		
授業形態	Ī	講義	学期	後期	開講年月	2024年9月	該当資格区分	国家資格			
教育課程		·····································	単位数	1	時間数	15時限			二輪自動車整備士		
科目の概要				基礎知識(エン 構造に於ける基	ジン本体、潤滑		量、燃料装置、吸		を学習し、理解する。		
科目の到達目	目標			ンの国家試験に 構造、作動を習							
教科書名		(令和4年10月 第 三級二輪自動車 (令和4年12月 第	第二版8刷発行) 日本自動車整備振	本自動車整備振興:	会連合会	教材名	自作PPT 教科書PDF				
設備名・機器	呂	PC タブレット プロジェクター	-			関連サイト	なし				
関連前科目		なし				関連後科目	エンジン構造Ⅰ	I			
授業計画						•					
回	授業	コマの主題(タ	イトル)		į	授業コマの到達	目標		備考		
第1回	総論			自動車の歴史に	こついての説明フ	が出来るように	なる。				
第2回	総論			内燃機関の分類	頭についての説5	明が出来るよう	になる。				
第3回	エンジン本位	体		シリンダ、ピス るようになる。		クシャフトなど	を理解し、説明	することが出来			
第4回	エンジン本位	体			レ、カムシャフ ることが出来る。		構の部品名称や	構造・作動を理			
第5回	エンジン本位	体			/グダイヤグラ <i>』</i> ことが出来るよ・		トルク、排気量	等の計算を理解	!		
第6回	エンジン本位	体			レエンジンの作動 月が出来るよう!		率				
第7回	潤滑装置				2サイクルエンシ ランスについての		ようになる。				
第8回	冷却装置				曲冷についての言 ≩路についての言						
第9回	冷却装置				/プ、サーモス? 疼るようになる。		称・構造・作動	を理解し、説明			
第10回	冷却装置				と凍結温度の関係 することが出来る		タ、ファンの部	品名称・構造を			
第11回	燃料装置			電子制御燃料製							
第12回	燃料装置			キャブレータ <i>0</i> る。	の概要と構造・権	幾能の概要につ	ついての説明が出来るようにな				
第13回	吸排気装置			るようになる。			造・作動を理解				
第14回	吸排気装置			スロットル・ノ る。	バルブの名称や、	, 構造・作動を	理解し、説明が	出来るようにな			
第15回	期末試験			期末試験の実施	色と解説 のおいかい かいかい かいかい かいかい かいかい かいかい かいかい かいか						
成績評価方法	<u> </u>										
		以上 及び 出版 催認テスト:毎日		分・範囲ごとに	行う場合30分)						
↓判定力	方法\該当す	る観点→	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	評価配分%	成績評価基準		
D期末試験(筆	ミ記式・実技	式)	1位	2位					秀(S):100点~90点		
②確認テスト		技式)	1位	2位				15	優(A): 89点~80点		
3課題レポー		`							良(B): 79点~70点		
①授業態度(授)			2位	1位			可(D): 69点~60点		
⑤作品(課題の⑥プレゼンテ・		ž表							不可(E):59点以下		
相手の理解度	E)						<u> </u>	なし 出 不合格の	出席率未達は評定しない		
	上記の半			のか、優先順位			1	場合	再試験を行う。		
シニがっ		喜多	シラバス 承認者	喜	多	授業担当 教員					
シラバス作成者		= -	予贮石								
作成者		= 2	予 心有								
作成者 担当教員実務。			小沙 伯								
	経験紹介		理由		更新箇所		作成		Check者(確認者)		
作成者 担当教員実務 更新履歴	経験紹介	更新			更新箇所		作成喜		Check者(確認者) 喜多		

科目名		シャシ構造 I		学科名		国際自	動車整備科		学年	l学年
授業形態	i	講義	学期	前期	開講年月	2024年4月	該当資格区分	国家資格	I	1
教育課程区分		必修	単位数	1	時間数	15時限	該当資格名称	一級・自動車	車・二輪自動車	整備士
目の概要		三級自動車シャ 二輪自動車のジ	・シ教科書を元 シャシ関係の構	にシャシに関す 造に於ける基礎	る構成及び作動 知識と作動原理	について勉強す について勉強す	「る。 「る。			
料目の到達目	目標	自動車、及び二	- 輪自動車のシ	ャシ関係の構造	、作動を習得し	、整備するため	めの基礎、基本を	理解する。		
教科書名		(令和4年11月 三級二輪自動車	シ 日本自動車 第四版4刷発行) 日本自動車整 第十版四刷発行	備振興会連合会		教材名	自作PPT 教科書PDF			
設備名・機器	署名	PC タブレット プロジェクター	_			関連サイト	なし			
関連前科目		なし				関連後科目	シャシ構造Ⅱ			
受業計画						•				
回	授業	ミコマの主題(タ	イトル)		-	授業コマの到達	目標			備考
第1回	総論			自動車の原理とるようになる	と性能/自動車の	の構成/自動車	の安全装置を理	解し、説明で	き	
第2回	総論			日本の二輪車二	L業の歴史につい	いて、説明出来	るようになる。			
第3回	動力伝達装	置	-	四輪車のクラッ	ッチについて説	明出来るように	なる。			
第4回	動力伝達装	置		四輪車のマニニが出来るように		スミッションの	構造が説明でき	、変速比の計	·算	
第5回	動力伝達装	置		プロペラ・シャ 明出来るように		ブ・シャフト、	ディファレンシ	ャルについて	説	
第6回	動力伝達装	置		ニ輪車のクラッ	ッチについて説	明出来るように	なる。			
第7回	動力伝達装	置		二輪車のトラン になる。	ンスミッション	の種類について	、作動・構造を	説明出来るよ	う	
第8回	動力伝達装	置		二輪車のトラン	ンスミッション	について、作動	・構造を説明出	来るようにな	:	
第9回	アクスル及	びサスペンショ	ν <u></u>	サスペンションる。	ンに用いられる.	スプリングの種	類を理解し説明	できるように	な	
第10回	アクスル及	びサスペンショ	ン	車軸懸架式・狙る。	虫立懸架式サス・	ペンションの構	造を理解し説明	できるように	な	
第11回	アクスル及	びサスペンショ	ν <u> </u>	ショックアブン	ノーバの構造を	理解し、その作	動が説明できる	ようになる。		
第12回	動力伝達装	置		駆動装置につい	って、作動・構造	造を説明出来る	 ようになる。			
第13回	動力伝達装	置		ベルト式自動類	無段変速機につい	いて、作動・構	造を説明出来る	ようになる。		
第14回	動力伝達装	置		ドライブチェー	ーンについて、イ	作動・構造を説	明出来るように	なる。		
第15回	期末試験			期末試験の実施	を と解説					
成績評価方法		以上 及び 出席	生本000/い L							
(期末試験	50分間) (石	権認テスト:毎日	時限行う場合10	Т		l m	11.60			57. /m² 44° 244
	方法\該当す €記式・実技		知識・理解 1位	思考・判断 2位	関心・意欲	態度	技能・表現	評価配分%	成績 秀(S):10	評価基準
	(筆記式・美技		1位	2位				15	優(A) : 8	
課題レポー			,	1.33				なし	良(B): 7	
)授業態度(哲	受業参加状況)			2位	1位		15	可(D):6	69点~60点
作品(課題の		No whe						なし	不可(E):5	59点以下
)プレゼンテ 相手の理解度	ーション・タ 复)	H衣						なし	出席率未達は記	評定しない。
	上記の判	判定方法がどの勧	視点に属するも	のか、優先順位	をつける。上位	1位~降順。		不合格の 場合	再試駁	を行う。
シラバス作成者		喜多	シラバス 承認者	喜	多	授業担当 教員				
3当教員実務	<u> 経験紹介</u>									
更新履歴 シニバフ	玉		THE CO.	T	电机体式		/hD	·±z	011	±. / かた∃x1 +/: \
シラバス! 改l	史新履歴 2024/2/5		変更		更新箇所		作成			者(確認者) 喜多
改1	4044/4/3	TAKE		<u> </u>			音			r v
改2										
改4										
改5										

科目名		電気工学 I		学科名		国際自	動車整備科		学年	1学年				
授業形態		講義	学期	後期	開講年月	2024年9月	該当資格区分	国家資格	1	1				
教育課程区分		必修	単位数	1	時間数	15時限	該当資格名称	一級・自動車	・二輪自動車	整備士				
科目の概要	ı			車の各装置につ、作動について			- 内容で基礎的な構	 ちょう	する。					
科目の到達	目標	二年生の電装技	受業の基礎とな	る電気の基礎知		通して電気の知	印識が必要となる	5 .						
教科書名		(令和4年10月 第二) 三級自動車ガソリン・ (令和4年10月 第二) 三級自動車シャシ E (令和4年11月 第四)	エンジン 日本自動車 版8刷発行) 日本自動車整備振興会選 版4刷発行) に自動車整備振興会連合	整備振興会連合会		教材名	自作PPT 教科書PDF							
設備名・機器	器名	PC タブレット プロジェクタ-				関連サイト	なし							
関連前科目		なし				関連後科目	電気工学Ⅱ							
授業計画						•								
回	授業	コマの主題(タ	イトル)			授業コマの到達	目標			備考				
第1回	電子・静電	気・導体・不導	体・半導体		とは、どのようき		2し、電気を流す	物質と流さない	`					
第2回	電流・電圧電流の三作	・抵抗・直流と 用	交流・	電圧と電流の過		流の違いが説明	できるようにな .るようになる。	る。						
第3回	合成抵抗の	-		抵抗の接続方法によって合成抵抗が変化する理由を理解し、回路の合成抵抗 の計算ができるようになる。										
第4回	オームの法	則、キルヒホッ	ッフの法則			流・抵抗値が計	-算によって答え	られるようにな	2					
第5回	直列及び並	列接続時におけ	る電気の関係	直列接続時と対)違いがなぜ起こ :る。	るのか、また名	4					
第6回	磁気、電流	による磁界、コ	イルについて		接続方法の長所と短所が説明できるようになる。 永久磁石と電磁石の違いを理解し、コイルに電流を流すとなぜ磁力が発生す るのかを説明できるようになる。									
第7回	右手親指の	法則、フレミン	グの法則	電流の流れる向きを見て、磁力の極性が答えられるようになる。										
第8回	自己誘導作	用と相互誘導作	:用	モータ、発電機、点火装置などの原理となる自己誘導作用と相互誘導作用と は何かを説明ができるようになる。										
第9回	半導体			半導体の特性を理解し、各半導体の使用方法が答えられるようになる。 (ダイオード・ツェナダイオード・発光ダイオード・ホトダイオード・トランジス タ・サーミスタ・I (2等)										
第10回	バッテリの	概要、起電原理	<u> </u>	タ・サーミスタ・1 C等) 自動車用鉛バッテリの仕組みを理解し、起電の原理が説明できるようにな る。										
第11回	電解液比重	、起電力、容量	、自己放電	放電終止電圧とは何かを理解し、容量の計算ができるようになる。 また、自己放電の起こる原理が説明できるようになる。										
第12回	始動装置の	概要					明できるように	なる。						
第13回	始動装置の	概要		モータが回転する。	する原理とマグ	ネットスイッチ	の作動が説明で	きるようにな						
第14回	始動装置の	点検整備		スタータ脱着	時の注意事項が タが点検できる		:る。							
第15回	期末試験			期末試験の実施										
成績評価方法	 去			1										
		以上 及び 出 催認テスト:毎		分・範囲ごとに	こ行う場合30分)									
	方法\該当す		知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	評価配分%		評価基準				
	筆記式・実技		1位	2位				70	秀(S):10					
J	(筆記式・実	技式)	1位	2位				15	優(A):					
3課題レポー		1	-		0.44	1 12		なし	良(B):					
9)授業態度(f 9)作品(課題 <i>0</i>	受業参加状況)	1		2位	1位		15	可(D):(
	・ーション・多	卷表						なし なし よ	不可(E):! 出席率未達は					
111 マンモ肝力		削定方法がどの	観点に属するも	のか、優先順位	でつける。上位	21位~降順。		不合格の 場合	再試願	食を行う。				
シラバス 作成者		喜多	シラバス 承認者	喜	多	授業担当 教員								
1F/以有 担当教員実務	経験紹介		△5√100√日	1										
更新履歴														
	更新履歴	更新	理由		更新箇所		作成者		Check	者(確認者)				
改1	2024/2/5	様式	(変更				喜	多		喜多				
改2			-			-			-					
改3														
744	1	l		1			I							

科目名		基礎自動車工学	ŧΙ	学科名		国際自	動車整備科		学年	1学年
授業形態		講義	学期	前期	開講年月	2024年4月	該当資格区分	国家資格		
教育課程		必修	単位数	1	時間数	15時限	該当資格名称		・二輪自動車	整備士
<u> 区分 Ⅰ</u> 科目の概要		自動車整備を本		いくために求め		および原理の概				
科目の到達目	標	自動車整備を本	本格的に学んで	いくために求め	られる基礎知識	、整備するため	かの基礎、基本を	:理解する。		
教科書名		(令和4年12月 第	第二版4刷発行) 日本自動車整備振			教材名	自作PPT 教科書PDF			
設備名・機器	名	PC タブレット プロジェクター	-			関連サイト	なし			
関連前科目		なし				関連後科目	基礎自動車工学	ŽⅡ		
授業計画		ı					1			
回	授業	コマの主題(タ	イトル)			受業コマの到達	目標			備考
第1回	自動車の概	要		定義・歴史自動	助車の分類を説	明出来るように	なる。			
第2回	自動車の構造	造		自動車の構成・	・エンジンの原理	理・作動・構造	を説明出来るよ	うになる。		
第3回	ガソリンエ	ンジンの構造		エンジン本体・ になる。	・潤滑装置・冷	印装置について	、作動・構造を	説明出来るよう	ò	
	ガソリンエ 造	ンジンとジーゼ	ルエンジン構	燃料装置・吸持	#気装置につい	て、作動・構造	を説明出来るよ	うになる。		
	〜 ガソリンエ 造	ンジンとジーゼ	ルエンジン構	エンジンにおい 装置、ジーゼル る。	て、必要な充電	表置、始動装置に 表置について、作	こついて、ガソリ 作動・構造を説明	ンエンジンの点 出来るようにな 	火	
第6回	動力伝達装	置		明出来るように	こなる。		ョンについて、			
第7回	動力伝達装	置		プロペラシャラ	フトとユニバー ・構造を説明出	_{サル・ジョイン} 来るようになる	トおよびディフ 。	ァレンシャル(<u>ت</u>	
第8回	動力伝達装	<u> </u>		二輪車のベルト 説明出来るよう		恵機、ドライブ	チェーンについ	て種類・構造を	ŧ	
第9回	動力伝達装	置		アクスルおよび うになる。	サスペンション(の構造・作動につ	ついて、種類・構	造を説明出来る	よ	
第10回	ステアリン: (ホイール			の構造や、取り)付ける向きの	重要性が説明出	明が出来るよう 来るようになる	0		
第11回	ブレーキ装	置(フレームと	ボデ―)		上まるための装む 月出来るように		、車両を構成す	る骨格の種類と	٤	
第12回	灯火装置・	計器及び警報装	置		器など、自動車 理解し、説明出		るためには、各 。	種の装置が必要	要	
第13回	自動車の材料	料		て理解し、自動	助車各部に要求	される性質を説	鉄鋼とその他の明出来るように	なる。		
第14回	自動車の材料	料			ス・プラスチッ? る性質を説明出		特性や種類を理 。	解し、自動車名	\$	
第15回	期末試験			期末試験の実施	モと解説 					
成績評価方法										
(期末試験 5	50分間)(6		寺限行う場合10	分・範囲ごとに		Ass at 1	LL	Stage Systematics Co	عدرين.	35 /π: ++ »+
↓ 判定力 ①期末試験(筆	i法\該当す 記式・実技		知識・理解 1位	思考·判断 2位	関心・意欲	態度	技能・表現	評価配分% 70		評価基準)0点~90点
2 確認テスト(,	1位	2位				15	優(A) : 8	
3課題レポー	ト(授業外)		,	1.00				なし	良(B): 7	
①授業態度(授	業参加状況)			2位	1位		15	可 (D) : 6	39点~60点
の作品(課題の		· =						なし	不可 (E) :	59点以下
		÷衣 							出席率未達は	評定しない。
		ーー 削定方法がどの額	視点に属するも	のか、優先順位	をつける。上位	1位~降順。		不合格の 場合	再試駁	を行う。
シラバス 作成者	-	喜多	シラバス 承認者	喜	多	授業担当 教員				
旦当教員実務網	圣験紹介		, ne H			77.50				
 更新履歴										
更新履歴 シラバス更	巨新履歴	更新	理由		更新箇所		作成	渚	Checka	皆(確認者)
更新履歴 シラバス 改1	巨新履歴 2024/2/5		理由 変更		更新箇所		作成喜			者(確認者) 喜多

科目名	7.	ナートメーション	基礎	学科名		国際自	動車整備科	ı	学年	l学年
授業形態		講義	学期	前期	開講年月	2024年4月	該当資格区分	国家資格		
教育課程 区分		必修	単位数	1	時間数	15時限	該当資格名称	一級・自動車	・二輪自動車	整備士
科目の概要							-カーの考え方や 車整備士に必要な			ーション化に使
科目の到達	目標			動ブレーキの知 本知識を身に付						
教科書名		なし				教材名	自作PPT 教科書PDF			
設備名・機能	器名	PC タブレット プロジェクター	_			関連サイト	なし			
関連前科目		なし				関連後科目	なし			
授業計画										
回	授美	≹コマの主題(タ	イトル)			授業コマの到達	目標			備考
第1回	概要			オートメーショ	ョンについて幅	広い内容を理解	こし説明できるよ	うになる。		
第2回	自動ブレー	キシステム		自動ブレーキに	こ関する考え方	や関わる法律を	:理解し説明でき	るようになる		
第3回	自動ブレー	キシステム		各メーカーの耳	取り組み、違い	について理解し	説明できるよう	になる。		
第4回	自動ブレー	キシステム		自動ブレーキ! なる。	こ関わるセンサ	の種類・構造・	作動を理解し説	明できるよう	に	
第5回	自動ブレー	キシステム		自動ブレーキに	関わるセンサの	制御を理解し説明	明できるようにな	る。		
第6回	自動ブレー	キシステム		安心安全に関	わる他のシステ	ムについて理解	『し説明できるよ	うになる。		
第7回	自動ブレー	キシステム		各センサの初期	朝化・調整方法	について理解し	説明できるよう	になる。		
第8回	自動運転シ	ステム		自動運転に関	する考え方や技	術について理解	『し説明できるよ	うになる。		
第9回	自動運転シ	ステム		自動運転に対する。	る各メーカーの	取り組みと違いい	こついて理解し説	明できるように	な	
第10回	自動運転シ	ステム		自動運転に関する。	わるセンサの種	類・構造・作動	を理解し説明で	きるようにな		
第11回	自動運転シ	ステム		「走る」「曲だったなる。	がる」「止まる	」を制御する技	術について理解	し説明できる	J.	
第12回	自動運転シ	ステム		走行環境の認知	印と判断技術に	ついて理解し説	明できるように	なる。		
第13回	自動運転シ	ステム		航法に関する記	認知と判断技術	について理解し	説明できるよう	になる。		
第14回	自動運転シ	ステム		乗用車以外の	自動運転技術に	ついて理解し説	明できるように	なる。		
第15回	期末試験			期末試験の実施	施と解説					
成績評価方法	法									
		以上 及び 出 確認テスト:毎6		0分・範囲ごとに	ニ行う場合30分)					
↓判定	方法\該当す	「る観点→	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	評価配分%	成績	評価基準
	筆記式・実技		1位	2位				70	秀(S):10	
J	(筆記式・集	(技式)	1位	2位				15	優 (A) : :	
3課題レポー	-ト(授業外) 授業参加状況	1)			0.71	171.		なし	良(B):	
9)授業態度(f 9)作品(課題 <i>0</i>		L/			2位	1位		15 ***1	可 (D) : (不可 (E) ::	
6)プレゼンテ	ーション・	発表						なし		
相手の理解	度)		組占に届するま	のか、優先順位	i をつける - トポ	51位~降順		なし 不合格の	出席率未達は	評定しない。 検を行う。
シラバス	1	喜多	シラバス		多	授業担当		場合	LINVI	
作成者 担当教員実務		百グ	承認者	2	1 <i>9</i>	教員				
更新履歴										
	更新履歴	更新	理由		更新箇所		作成	者	Check	者(確認者)
改1	2024/2/5	様式	文更		-		喜	多		喜多
改2					-	-			-	
改3	1		· <u></u>							

改4 改5

科目名		IT・マテリア	ル	学科名		国際自	動車整備科		学年	1学年
授業形態	i	講義	学期	後期	開講年月	2024年9月	該当資格区分	国家資格		<u> </u>
教育課程区分		必修	単位数	1	時間数	15時限	該当資格名称	一級・自動車	・二輪自動車	整備士
科目の概要							・ などの原料の材質 た製図の基盤と		用途を理解す	る。
科目の到達目	目標	サービスマニュ	アル等の図面	の読み解きに加			な自動車整備に繋 が出来る様にな			
教科書名		基礎自動車工学 日本 (令和4年10月 第二版 自動車材料 全国自動 (平成31年3月 改訂3 30時間でマスターWord (令和5年1月第二版発	車大学校・整備専門学 版発行) &Excel 富士通エフ・	校協会		教材名	自作PPT 教科書PDF			
設備名・機器	器名	PC タブレット プロジェクター	-			関連サイト	なし			
関連前科目		なし				関連後科目	なし			
授業計画		Į.				L				
回	授業	ミコマの主題(タ	イトル)			授業コマの到達	 目標			備考
第1回	自動車の材	料(構成と動向)	現代自動車と次出来るようにな		於ける材料と環	境への配慮、材	料の性質が説	明	
第2回	自動車の材	料(金属材料の	性質)		X要な性質と試 試験・検査法の		i性を導入に、自 i来ようになる。	動車材料とし	τ	
第3回	自動車の材	料(鉄鋼材料)			剛と鋼、炭素鋼 ついて説明が出		用される鋼と鋼	に於いて、そ	Ø	
第4回	自動車の材	料(鉄鋼材料)			剛板と特殊鋼」 金について説明:		される鋼板と特 る。	殊鋼に於いて	`	
第5回	自動車の材	料(鉄鋼材料)			の他の鋼」自動! いて説明が出来		るその他の鋼、鋳	鉄に於いて、そ	:n	
第6回	自動車の材	料(非鉄金属材	料)		用途」アルミニ 質と使用例につ		}を代表とする非 ∶うになる。	鉄金属の性質	<u>*</u>	
第7回	自動車の材	料(非金属材料)		種類と用途」プ び、性質と使用(料・ゴム・ガラス 出来ようになる。	・セラミック・	繊	
第8回	PC基礎			画面の構成、>	メールアカウン	トの作成・ロク	[*] イン方法が出来	るようになる	•	
第9回	PC基礎			文字入力の基礎	・読みのわから	ない漢字の入力が	が出来るようにな	る。		
第10回	Word(入門))		文章の入力にか	叩えて人名や住	所など辞書の活	用が出来る様に	なる。		
第11回	Word(文章	の作成)		文章の保存と記	売み込み、印刷	レイアウトと印	I刷が出来る様に	なる。		
第12回	Word(活用))		る。			アル文書も作成			
第13回	Excel(入門	引)		データ入力の基 る。	基礎を学び基本	的なワークシー	-トの作成・編集	が出来る様に	な	
第14回	Excel (グラ	77)			グラフを作成す D変更が出来る					
第15回	期末試験			期末試験の実施	を と解説					
成績評価方法	 去									
		以上 及び 出席 確認テスト:毎8		分・範囲ごとに	行う場合30分)					
	方法\該当す		知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	評価配分%		評価基準
D期末試験(筆		-	1位	2位				70	秀(S):10	
②確認テスト		技式)	1位	2位				15	優(A):	
②課題レポー ②授業態度(打)			2位	1位		なし 15	良(B): ' 可(D): (
が文表思及(f) の作品(課題の		.,			7.177	1.177		なし	可 (D) · (不可 (E) :!	
プレゼンテ	ーション・タ	発表						なし	出席率未達は	
相手の理解原		判定方法がどの勧	見点に属するも	のか、優先順位	L をつける。上位	11位~降順。		不合格の場合		食を行う。
シラバス 作成者	:	喜多	シラバス 承認者	喜	多	授業担当 教員		.∞ H		
旦当教員実務	経験紹介		- 4 - 19/0° El	1		,				
更新履歴										
シラバス	更新履歴		理由		更新箇所		作成		Check	者(確認者)
改1	2024/2/5	様式	変更		-		喜	多		喜多
改2							1			
改3										
改4							1			

科目名		新エネルギーエ	学	学科名		国際自	動車整備科		学年	1学年
授業形態		講義	学期	前期	開講年月	2024年4月	該当資格区分	国家資格		
教育課程 区分		必修	単位数	1	時間数	15時限	該当資格名称	一級・自動車	・二輪自動車	整備士
科目の概要				く、脱炭素社会 ーなどに移行す。						
科目の到達目	目標	・電気モーター	- や水素燃料電	池などの内燃機	関に代わるエネ	ルギーについて	レギーの今後につ て知識を習得する こついて知識を習	0.	習得する。	
教科書名		授業用パワーポイ	ント画像集(科目	lclassroomt内にあ	9)	教材名	自作PPT 教科書PDF			
設備名・機器	2名	PC タブレット プロジェクター	-			関連サイト	なし			
関連前科目		なし				関連後科目	なし			
授業計画		1				•	'			
回	授業	コマの主題(タ	イトル)		-	授業コマの到達	目標			備考
第1回	ガソリン車	と ディーゼル	車	ガソリン車とラ	ディーゼル車、	どちらが良いの	か。			
第2回	HV車とEV車	及び PHEV車		EV車と比較して	CHV車は何が良い	いのか。EV車に	対してPHEV車は	何が良いのか		
第3回	水素エネル	ギー		脱炭素以外にも	らあるメリット。 	. 普及にむけた	- 今後の課題につ	いて。		
第4回	日本の発電	所の種類と特徴		排気ガスを出さて。	ないEV車の代	わりに、二酸化	に炭素を出してい	る発電所につ	,	
第5回	確認試験 及	び解説		第1回~第4回	の内容から出題	及び 解説				
第6回	そもそもエの再生可能	ネルギーとは、 エネルギー	新エネルギー		・海流発電・液		ー・水力発電・ ・地熱発電・バ			
第7回	枯渇エネル	ギーについて		枯渇性資源 の中	中の化石燃料につ	いて、人類のエ	ネルギー利用の歴	生		
第8回	化石エネル	ギーについて	その①	石油とは		-				
第9回	化石エネル	ギーについて	その②	石炭とは・天然	ガスとは					
第10回	走行抵抗の	種類について考	える。	走行抵抗の内、	空気抵抗とは	どんなものか理	解する。			
第11回	走行抵抗の	種類について考	える。	走行抵抗の内、	摩擦抵抗とは	どんなものか理	解する。			
第12回	熱効率の向	上について考え	る。	熱損失を減らす	ナ手段を理解す	ა .				
第13回	ロス馬力と	はどんなものか	理解する。	各部品の損失	(ロス) につい	て、有効な機構	・手法の一覧を	確認する。		
第14回	確認試験 及	び解説		第10回~第1	3回の内容か	ら出題 及び 解	 ? 説			
第15回	期末試験			期末試験		-				
	合成績60点以	以上 及び 出版 推認テスト:毎8)分・範囲ごとに	行う場合30分)					
	方法\該当す		知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	評価配分%		評価基準
)期末試験(筆)確認テスト			1位 1位	2位 2位				70 15	秀(S):10 優(A):8	
部課題レポー		10-41	1.177	Δ' <u> Μ</u> .				なし	度 (A) · (B) ; 7	
	受業参加状況)			2位	1位		15	可 (D) : 6	
)作品(課題の ()プレゼンテ		表						なし	不可(E):5	
相手の理解原	E)							不合格の	出席率未達は	
2/= 109 -1	上記の半	定方法がどの		のか、優先順位	をつける。上位			場合	再試駁	を行う。
シラバス <u>作成者</u> 3当教員実務		喜多	シラバス 承認者	喜	多	授業担当 教員				
<u> </u>	小王周大邢白丁									
		事が	理由	I	再 並停ご		<i>Ih</i> −1	: 孝	Chast-	长 (72年=371 ± 1
更新履歴	五批四座	中 新	理由		更新箇所		作成			者(確認者)
シラバス			変更		-		喜	多		喜多
	更新履歴 2024/2/5		変更		<u>-</u>			多		吾 多
シラバス! 改l			変更		-		喜	<i>y</i>		喜多

科目名		工作作業実習	i	学科名		国際自	動車整備科		学年	1学年
授業形態	乡	图	学期	前期	開講年月	2024年4月	該当資格区分	国家資格		
教育課程 区分	ý	必修	単位数	1	時間数	13時限	該当資格名称	一級・自動車	三・二輪自動車	整備士
科目の概要				具等の使用方法。 卸を理解させる。		熟させる。				
科目の到達	目標	機器類や作業用 電子工作から、	工具の取り扱い プログラミン:	ハを習熟させ基 グの基礎を理解	本を理解させる させる。	0				
教科書名		基礎自動車整備作 (令和4年10月 第 自動車整備工具・ (平成30年3月 こ	第一版6刷発行) 機器 全国自動車	備振興会連合会 大学校・整備専門:	学校	教材名	自作PPT 教科書PDF			
設備名・機器	景名	PC タブレット プロジェクター	プレット ロジェクター 関連サイト なし							
関連前科目		なし				関連後科目	測定作業実習			
授業計画	Ш									
回	授業	コマの主題(タ	イトル)		ł	受業コマの到達	目標			備考
第1回	ねじ切り作業	É					について理解す 業を身につける			
第2回	電子工作(フ	プログラミング)		ブの基礎を理解 [~] 戈し、プログラク		電子部品を制御	する。		
成績評価方法 単位認定 総 (実技試験	合成績60点以	【上 及び 出席	窄率90%以上							
↓判定	方法\該当す	る観点→	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	評価配分%	成績	資評価基準
)期末試験(氫	産記式・実技:	式)						なし	秀(S):	00点~90点
確認テスト	(筆記式・実持	技式)						なし	優 (A) :	89点~80点
課題レポー	ト(授業外)		2位				1位	15	良(B):	79点~70点
)授業態度(打	受業参加状況))			2位	1位		15	可 (D) :	69点~60点
作品(課題の)出来映え)						1位	70	不可 (E):	59点以下
)プレゼンテ 相手の理解	ーション・発 度)	表				_		なし	出席率未達は	評定しない。
	上記の判	定方法がどの額	見点に属するも	のか、優先順位	をつける。上位	1位~降順。		不合格の 場合	再試	験を行う。
シラバス		H 42	シラバス			授業担当				

シラバス 作成者	in the second	喜多	シラバス 承認者	喜多	授業担当 教員		
担当教員実務	経験紹介						
更新履歴							
シラバス	更新履歴	更新	理由	更新箇所		作成者	Check者(確認者)
改1	2024/2/5	様式	変更	=		喜多	喜多
改2							
改3							
改4							
改5							

科目名		測定作業実習	я В	学科名		国際自	動車整備科		学年	l学年	
授業形態		実習	学期	前期	開講年月	2024年4月	該当資格区分	国家資格	•	"	
教育課程 区分		必修	単位数	1	時間数	27時限	該当資格名称	一級・自動車	(・二輪自動車整		
科目の概要		計測機器の基本	*的な取り扱い	及び測定作業と	その応用ができ	るように習熟さ	゙ せる。				
科目の到達日	目標		技術を習熟する。 を理整頓につい								
教科書名		(令和4年10月)	機器 全国自動車	備振興会連合会 大学校・整備専門	学校	教材名	自作PPT 教科書PDF				
設備名・機器	器名	PC タブレット プロジェクター	_			関連サイト	なし				
関連前科目		なし				関連後科目	測定作業実習				
授業計画											
回	授美	≹コマの主題(タ	イトル)		授業コマの到達目標						
第1回	測定機器の	取り扱い			ヽて理解し説明~ レ各種部品等を∑						
第2回	測定機器の	取り扱い		ダイヤル・ゲー	-ジを使用し各種	重部品等を測定	できるようにな できるようにな できるようにな	る。			
成績評価方法	去										
単位認定 総 (実技試験		以上 及び 出席	席率90%以上								
↓判定	方法\該当す	「る観点→	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	評価配分%	成績評	価基準	
①期末試験(筆記式・実技	技式)	2位				1位	70	秀 (S) :100,	点~90点	
②確認テスト	(筆記式・集	[技式]						なし	優 (A) : 89,	点~80点	
③課題レポー	ト(授業外)		2位				1位	15	良(B): 79,	点~70点	
④授業態度(打	受業参加状況	2)			2位	1位		15	可 (D) : 69,	点~60点	
⑤作品(課題0	出来映え)							なし	不可 (E) :59,	点以下	
⑥プレゼンテ (相手の理解)		発表						なし	出席率未達は評別	定しない。	
	上記の	判定方法がどの勧	視点に属するも	のか、優先順位	をつける。上位	1位~降順。	•	不合格の 場合	再試験を	:行う。	
シラバス 作成者		喜多	シラバス 承認者	喜	多	授業担当 教員					
担当教員実務	経験紹介			_				_		_	

作成者	Ī	喜多	承認者	喜多	教員		
担当教員実務	経験紹介						
更新履歴							
シラバス	更新履歴	更新	理由	更新箇所		作成者	Check者(確認者)
改1	2024/2/5	様式	変更	=		喜多	喜多
改2							
改3							
改4							
改5			·		•		

科目名		エンジン実習	I	学科名		国際白	動車整備科		学年	1学年		
授業形態	3	実習	学期	後期	開講年月	2024年9月	該当資格区分	国家資格	1.7	1.1 —		
教育課程		込修	単位数	2	時間数	32時限	該当資格名称		・二輪自動車整	を備士 と備士		
<u>区分</u> 科目の概要			1			7 312	10. II. II. II. II. II. II. II. II. II. I					
科目の到達	 目標					の国家試験に合	格できるレベルの	基礎知識と技術	を習得する。			
教科書名		(令和4年10月 第二版 三級自動車ジーゼル・ (令和4年11月 第九版 三級二輪自動車 日本版 ガソリン・エンジン構 (令和3年3月 改訂2版	エンジン 日本自動車	整備振興会連合会 会 ・整備専門学校		教材名	自作PPT 教科書PDF					
設備名・機器	器名	PC タブレット プロジェクター				関連サイト	なし					
関連前科目		工作作業実習・	測定作業実習			関連後科目	エンジン実習Ⅰ	I				
授業計画												
回	授業	コマの主題(タ	イトル)			授業コマの到達	目標			備考		
第1回	2気筒エンジ	ジンの分解・組立		造・作動を理解	ਊすると共に、〕	・組立を通じて 正しい工具の使 きるようになる	,エンジンの各 い方を理解し実 。	部品の名称・構 技試験にて 6	ali pri			
3310	3気筒エンジ	ジンの分解・組立			F動を理解し、		,シリンダ・へ 0%以上を正解					
第2回	ホンダ スー	パーカブエンジン	~の分解・組立		験にて60%以上		部品の名称・構造 ができるようにな		<u></u>			
#14년 	ホンダ CB	125エンジンの分)解·組立		に,実技試験に		/ジンの各部品の E解することができ					
第3回	4気筒ジーセ	ブルエンジンの分	解·測定·組立	トヨタ2Cエンジンの分解・組立を通じて、ガソリン・エンジンとの構造・作動の違いやエンジン各部の名称・構造・作動を理解し、実技試験にて60%以上を正解することができるようになる。								
弗3凹	燃料装置 インジェクシ	ョン・ポンプの分	解·組立		称・構造・作動を		ション・ポンプの名 験にて60%以上					
665 4 E-1	4気筒水平対	対向エンジンの分	·解·測定·組立		良否判定ができ		て,4気筒直列エ 技試験にて60%					
第4回	可変バルブ・分解・測定・	タイミング機構 <i>0</i> 組立	Dエンジンの				変バルブ・タイミン 以上を正解するこ					
成績評価方法	去											
4 LLST 40	合成績60点以											
単位認定 総 (実技試験	60分)	以上 及び 出席	常率90%以上	ı	T	I						
(実技試験	60分) 方法\該当す		第率90%以上 知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	評価配分%	成績調	平価基準		
(実技試験 ↓判定	方法\該当す	る観点→		思考・判断	関心・意欲	態度	技能·表現 1位		成績i 秀(S):10			
(実技試験 ↓判定。)期末試験(â)	方法\該当す	る観点→	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度		70		0点~90点		
(実技試験 ↓判定) 期末試験(全) 確認テスト	方法\該当す 筆記式・実技 (筆記式・実	る観点→	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度		70 なし	秀(S):10	0点~90点 9点~80点		
(実技試験 →判定 対期末試験(の確認テスト の課題レポー	方法\該当す 華記式・実技 (筆記式・実 ト(授業外)	る観点→ 式) 技式)	知識・理解 2位	思考・判断	関心・意欲	態度	1位	70 なし 15	秀(S):10 優(A):8	0点~90点 9点~80点 9点~70点		
(実技試験 →判定。 対末試験(2) 確認テスト の課題レポー の授業態度(打)	方法\該当す 章記式・実技 (筆記式・実 ト(授業外) 受業参加状況	る観点→ 式) 技式)	知識・理解 2位	思考・判断			1位	70 なし 15	秀(S):10 優(A):8 良(B):7	0点~90点 9点~80点 9点~70点 9点~60点		
(実技試験 →判定、)期末試験(â ②確認テスト)課題レポー D授業態度(打) 少作品(課題の プレゼンテ	方法\該当す 章記式・実技 (筆記式・実 ト(授業外) 受業参加状況 D出来映え) ーション・引	る観点→ 式) 技式)	知識・理解 2位	思考・判断			1位	70 なし 15 15	秀(S):10 優(A):8 良(B):7 可(D):6	0点~90点 9点~80点 9点~70点 9点~60点 9点以下		
(実技試験 →判定、)期末試験(â ②確認テスト)課題レポー D授業態度(打) 少作品(課題の プレゼンテ	方法\該当す 章記式・実技 (筆記式・実 ト(授業外) 受業参加状況 D出来映え) ーション・3 g)	る観点→ 式) 技式))	知識・理解 2位 2位		2位	1位	1位	70 なし 15 15 なし なし なし 不合格の	秀(S):10 優(A):8 良(B):7 可(D):6 不可(E):5	0点~90点 9点~80点 9点~80点 9点~70点 9点~60点 9点以下 呼定しない。		
(実技試験 → 判定 〕期末試験(2) 企確認テスト ③課題レポー ①授業態度(表) の作品(課題の ③プレゼンテ 相手の理解所	方法\該当す 章記式・実技 (筆記式・実 ト(授業外) 受業参加状況 D出来映え) ーション・3 g)	る観点→ 式) 技式))	知識・理解 2位 2位 2位	思考・判断のか、優先順位	2位	1位	1位	70 なし 15 15 なし なし	秀(S):10 優(A):8 良(B):7 可(D):6 不可(E):5	0点~90点 9点~80点 9点~70点 9点~60点 9点以下		
(実技試験 → 判定、 力期末試験(â ②確認テスト。 ③課題レポー Ð授業態度(打) 少作品(課題の プレゼンテ	方法\該当す 章記式・実技 (筆記式・実 ト(授業外) 受業参加状況 の出来映え) ーション・3 度) 上記の半	る観点→ 式) 技式))	知識・理解 2位 2位	のか、優先順位	2位	1位	1位	70 なし 15 15 なし なし なし 不合格の	秀(S):10 優(A):8 良(B):7 可(D):6 不可(E):5	0点~90点 9点~80点 9点~80点 9点~70点 9点~60点 9点以下 呼定しない。		
(実技試験 → 判定 シ神末試験(2) 企確認テスト 3)課題レポー 3)課題レポー 3)授業態度(抗 5)作品(課題の 6)プレゼンテ 相手の理解に シラバス 作成者	方法\該当す 章記式・実技 (筆記式・実 ト(授業外) 受業参加状況 の出来映え) ーション・3 生記の半	る観点→ 式) 技式)) ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・	知識・理解 2位 2位 2位 現点に属するも シラバス	のか、優先順位	2位	1位 2位~降順。 授業担当	1位	70 なし 15 15 なし なし なし 不合格の	秀(S):10 優(A):8 良(B):7 可(D):6 不可(E):5	0点~90点 9点~80点 9点~80点 9点~70点 9点~60点 9点以下 呼定しない。		
(実技試験 → 判定 シ期末試験(2) 企確認テスト 3)課題レポー ④授業態度(射 ⑤ か作品(課題の ⑥ ブレゼンテ 相手の理解原 シラバス	方法\該当す 章記式・実技 (筆記式・実 ト(授業外) 受業参加状況 の出来映え) ーション・3 生記の半	る観点→ 式) 技式)) ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・	知識・理解 2位 2位 2位 現点に属するも シラバス	のか、優先順位	2位	1位 2位~降順。 授業担当	1位	70 なし 15 15 なし なし なし 不合格の	秀(S):10 優(A):8 良(B):7 可(D):6 不可(E):5	0点~90点 9点~80点 9点~80点 9点~70点 9点~60点 9点以下 呼定しない。		
(実技試験 → 判定 シートリングでは シー・シー・シー・シー・シー・シー・シー・シー・シー・シー・シー・シー・シー・シ	方法\該当す 章記式・実技 (筆記式・実 ト(授業外) 受業参加状況 の出来映え) 一ション・3 度) 上記の半	る観点→ 式) 技式)) ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・	知識・理解 2位 2位 2位 現点に属するも シラバス	のか、優先順位	2位	1位 2位~降順。 授業担当	1位	70 なし 15 15 なし なし なし 不合格の 場合	秀(S):10 優(A):8 良(B):7 可(D):6 不可(E):5 出席率未達は評	0点~90点 9点~80点 9点~80点 9点~70点 9点~60点 9点以下 呼定しない。		
(実技試験 → 判定: ・ 対定: ・ 対応 対応 対応 対応 対応 対応 対応 対応 が 対応 が 対応 が が が が	方法\該当す 章記式・実技 (筆記式・実 ト(授業外) 受業参加状況 の出来映え) 一ション・3 度) 上記の半	る観点→ 式) 技式))	知識・理解 2位 2位 2位 現点に属するも シラバス 承認者	のか、優先順位	2位 をつける。上位 多	1位 1位~降順。	1位	70 なし 15 15 なし なし なし 不合格の 場合	秀(S):10 優(A):8 良(B):7 可(D):6 不可(E):5 出席率未達は評 再試験	0点〜90点 9点〜80点 9点〜70点 9点〜60点 9点以下 P定しない。 を行う。		
(実技試験 → 判定 シ確認テスト シ確認テスト シ課題レポー シ授業態度(射 シ作品(課題の プレゼンテ 相手の理解 シラバス 作成者 担当教員実務	方法\該当す 章記式・実技 (筆記式・実 ト(授業外) 受業参加状況 の出来映え) 一ション・多 度) 上記の半 経験紹介	る観点→ 式) 技式))	知識・理解 2位 2位 2位 2位 現点に属するも シラバス 承認者	のか、優先順位	2位 をつける。上位 多 更新箇所	1位 1位~降順。	1位	70 なし 15 15 なし なし なし 不合格の 場合	秀(S):10 優(A):8 良(B):7 可(D):6 不可(E):5 出席率未達は評 再試験	0点~90点 9点~80点 9点~70点 9点~60点 9点以下 を行う。 f(確認者)		

科目名		シャシ実習 I		学科名		国際白疸	動車整備科		学年	1学年		
科日名 授業形態		実習	学期	字科名 後期	開講年月	2024年9月	該当資格区分	国家資格	子午	1子午		
教育課程		ベロ 必修	単位数	2	時間数	32時限	該当資格名称		・二輪自動車 ³	整備十		
<u>区分</u> 科目の概要				こより、整備の				1120	- — на д 293 — 3	E 110 -1		
科目の到達目	 目標			基礎知識を身に			, - v					
教科書名		(令和4年11月 第四版 三級二輪自動車 日本 (令和4年12月 第十版 シャシ構造 I 全国自 (平成29年3月 改訂者	:自動車整備振興会連合 反四刷発行) 動車大学校・整備専門	会学校		教材名	自作PPT 教科書PDF 各整備要領書					
設備名・機器	器名	PC タブレット プロジェクター		関連サイトなし								
関連前科目		工作作業実習・	測定作業実習		関連後科目 シャシ実習Ⅱ							
授業計画												
回	授業	ミコマの主題(タ	イトル)		:	授業コマの到達	目標			備考		
第1同	ホイール及び	バタイヤ(四輪車)		四輪車のホイール及びタイヤの呼称、タイヤの構造の違いを説明できる。 タイヤの脱着及びホイール・バランスが調整できる。 チューブ・タイプとチューブ・レスのタイヤのパンク修理ができる。								
第1回 ホイール及びタイヤ(二輪車)				タイヤの脱着な	及びホイール・	バランスが調整	の構造の違いを できる。 のパンク修理が					
第2回	ブレーキ装置(四輪車)				と構造、機能が		か説明できる。 シールの交換が	できる。				
	ブレーキ装置(二輪車)				二輪のブレーキ装置の作動が説明できる。 ブレーキの種類と構造、機能が説明できる。 ドラム・ブレーキとディスク・ブレーキ分解・組立とシールの交換ができる。							
第3回	動力伝達装	置		トランス・ミッションの構造、機能と4速MT分解・組立ができる。 シンクロ・メッシュ機構、インタ・ロック機構が説明できる。 トランスファの分解・組立ができる。 FFトランスアクスルの分解・組立ができる。								
3300	アクスル及び	ド サスペンション		各種サスペンション型式の違いが説明できる。 ストラット、スプリングの分解、組付けができる。								
第4回	動力伝達装	置		自動車の歴史、動力伝達装置 クラッチの構造、機能と分解及びクラッチ・ディスクの測定ができる。 コイル・スプリング式クラッチ・カバーの分解・組立ができる。 スプリングの計測や及びレバーの調整ができる。								
37.4EJ	動力伝達装	置				ャフトの構造が説 ンャル・ギヤの分類	明できる。 解、組立、調整が	できる。				
成績評価方法	去											
単位認定 総 (実技試験		以上 及び 出席	常率90%以上					, ,				
↓判定	方法\該当す	る観点→	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	評価配分%	成績	評価基準		
D期末試験(筆	筆記式・実技	式)	2位				1位	70	秀(S):10	10点~90点		
②確認テスト	(筆記式・実	技式)						なし	優(A): 8	19点~80点		
③課題レポー	・ト(授業外)		2位				1位	15	良(B): 7	79点~70点		
④授業態度(<u>†</u>	受業参加状況	()			2位	1位		15	可(D):6	19点~60点		
の作品(課題の)出来映え)							なし	不可 (E):5	i9点以下		
6プレゼンテ 相手の理解		発表						なし	出席率未達は記	評定しない。		
コロコ マノを土が平方		列定方法がどの勧	L 観点に属するも	」 のか、優先順位	_ :をつける。上位	1位~降順。	1	不合格の 場合	再試験	を行う。		
シラバス		喜多	シラバス	支	多	授業担当		·wild				
作成者 担当教員実務			承認者		-	教員						
ュコ	小土局大不白ノ「											
		<u> </u>		1						la (=1:== 1 :		
シラバス更新履歴 更新理由				更新箇所			作成			皆(確認者)		
改1 改2	2024/2/5	様式	変更		-		喜	沙		喜多		
改2												
改4												
745		1	·	•	·							

科目名		電装実習I		学科名(コース名)		自動車整備和	斗(四輪コース)		学年	1学年		
授業形態		実習	学期	後期	開講年月	2024年9月	該当資格区分	国家資格		1		
教育課程 区分		必修	単位数	2	時間数	32時限	該当資格名称	一級・自動車	・二輪自動車	整備士		
科目の概要	I.			業と連動させた 滋酥道・半道体			長置・点火装置・	 	型粉. 冷噪声	比墨		
科目の到達目	目標	エンジンやシャ	シにも電装品		り、各分野に共	通して電気の知	無人表置 間識が必要となる		位为 11·0g/万	KE.		
教科書名		基礎自動車工学 日本自 (令和4年10月 第二版44 三級自動車がソリン・エ (令和4年10月 第二版84 三級自動車シャン 日本 (令和4年1月 第四版44 三級二輪自動車 日本自 (令和4年12月 第一版年 電路品報度 全国自動車 『安成30年3月 改訂初版	副発行) 自動車整備振興会連合会 副発行) 助車整備振興会連合会 助刷発行) 大学校・整備専門学校	聚興 会連合会		教材名	自作PPT 教科書PDF					
設備名・機器	岩名	PC タブレット プロジェクター	-			関連サイト	なし					
関連前科目		工作作業実習・	測定作業実習			関連後科目	電装実習Ⅱ					
授業計画												
回	授業	ミコマの主題(タ	イトル)			授業コマの到達	目標			備考		
第1回	サーキットテ 電気の基礎	スタの使用方法		デジタル式のう	テスタを使用で テスタを使用で 氐抗値を正確に	きるようになる	•					
원1면	第1回 電火の登録 電圧、電流、抵抗 電圧、電流、抵抗 電気回路の測定				よる 。		して簡単な配線 抵抗値が答えら		55			
					及び右手親指の流	去則を理解し、電	磁石の極性が答	えられるように	な			
第2回	電気と磁気の各法則 第2回 コイルの誘導起電力				則を理解し、コイ	ルの回転方向及	び発生する電流	の方向が答えら	on			
	半導体、バッテリ(四輪車と二輪車)				ダイオード・ツェナダイオード・発光ダイオード・ホトダイオード・トランジスタ・コンデンサの各半導体の回路接続と点検ができるようになる。							
第3回	始動装置			アーマチュア・フィールドコイル・ブラシ・マグネットスイッチの各装置の点検ができる ようになる。 スタータの無負荷特性テストが行えるようになる。								
35 D	充電装置			になる。	マ・ダイオード・ボ が取り扱えるよ		ノータの各装置の	点検ができるよ	:5			
M	点火装置			イグニションコイル、ハイテンションコード、スパークプラグの点検が行えるようになる。 スパークプラグの状態を見て、熱価の選択ができるようになる。								
第4回	灯火装置·言	十器類・ボデー電	装	適切なリレーを 燃料計を例にし	格が組めるように 使用して、回路だ で、指針の動く原表を基にワイパの	が組めるようにな 原理が説明できる	るようになる。					
成績評価方法	±.			'					<u>'</u>			
単位認定 総 (実技試験		以上 及び 出席	第率90%以上									
	方法\該当す	- る観点→	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	評価配分%	成績	評価基準		
期末試験(筆	作記式・実技	式)	2位				1位	70	秀(S):10	0点~90点		
確認テスト	(筆記式・実	技式)						なし	優(A): 8			
課題レポー	ト(授業外)		2位				1位	15	良(B): 7			
)授業態度(キ	受業参加状況)			2位	1位		15	可(D):6			
作品(課題の					- 122	* 124		なし	不可(E):5			
プレゼンテ	ーション・き	発表							出席率未達は記			
相手の理解原		判定方法がどの額	目占に届する*	のか 優生順位	ション・ション・ション・ション・ション・ション・ション・ション・ション・ション・	71位~降順	1	不合格の		を行う。		
S 8 -	<u> エロレッナ</u>	コペニノコ 1公 / 4・C レノ隹			.こ~いる。工社		T	場合	十十日ルリカゲ	、こ11 ノ。		
シラバス 作成者		喜多	シラバス 承認者	喜	多	授業担当 教員						
3 当教員実務	経験紹介											
シラバス	更新履歴	更新	理由		更新箇所		作成	渚	Check	皆(確認者)		
改1	2024/2/5		変更		=		喜			喜多		
改2												
改3												
改4				ļ			1					

科目名		総合実習I		学科名		自動車整備科	4(四輪コース)		学年	1学年	
授業形態		実習	学期	(コース名) 通期	開講年月	2024年4月	該当資格区分	国家資格	1 - '	1 - '	
教育課程		必修	単位数	6	時間数	120時限	該当資格名称		・二輪自動車	整備士	
<u>区分</u> 科目の概要		でもある積載車 動車の構造を学	퇃(ウインチ)(学習する。	の取り扱いについ	学習し、作業内 いて学習し安全	容や点検結果を 作業を身につけ	説明出来る応酬る。また、自動	 話法を身につ	ける。整備士る	として必要な知	
科目の到達目	目標	自動車の日常点積載車(ウイン	気検及び新車無	四輪自動車との 対点検を理解し、 いについて学習	作業説明応酬	話法を身に付け	る。				
教科書名		(令和4年10月 第二版8 三級自動車シャシ 日本 (令和4年11月 第四版4 三級二輪自動車 日本 (令和4年12月 第十月	刷発行) 自動車整備振興会連合会 刷発行) :自動車整備振興会連合 坂四刷発行))手引き 日本自動車整	会	AXIVE I DI						
設備名・機器	器名	PC タブレット プロジェクター	_		関連サイト なし						
関連前科目		工作作業実習・		関連後科目 電装実習Ⅱ							
授業計画											
回	授業	ミコマの主題(タ	イトル)		į	受業コマの到達	目標			備考	
第1回	四輪・二輪自	自動車の日常点板	¢	点検結果の良る になる。		合箇所について	に作業できるよ は必要な整備作 るようになる。		Ď		
第2回		期点検作業		日常点検及び、	新車無料点検の)内容を理解し正	の取扱ができる。 確に作業できる。 は必要な整備が	ようになる。	ప .		
	(作来祝叻//	芯酬 話法の実施)		点検内容、点検結果を正しくお客様に伝えることができるようになる。 (作業説明応酬話法を理解する)							
第3回	一松白新古			フロントサスペンション分解・点検・組付ができるようになる。 キャブレータ分解・点検・組付ができるようになる。 ドライブチェーンの点検調整・交換ができるようになる。							
二輪自動車 第4回				2サイクル・コ		作動について理!	ようになる。 解し説明できる て要点を説明で				
成績評価方法 単位認定 総 (実技試験	合成績60点」	以上 及び 出/ - - る観点→	京率90%以上 知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	評価配分%	成績	評価基準	
成績評価方法 4位認定 総 (実技試験 → 判定)	合成績60点」 60分)	- る観点→	ı	思考・判断	関心・意欲	態度	技能·表現 1位	評価配分% 70	成績		
成績評価方法 位位認定 総 (実技試験 → 判定))期末試験(3	合成績60点↓ 60分) 方法\該当す	- る観点→ :式)	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度		1		0点~90点	
成績評価方法 は位認定 総 (実技試験 → 判定)期末試験(1))))))))))))))	合成績60点↓ 60分) 方法\該当す 筆記式・実技 (筆記式・実	- る観点→ :式)	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度		70	秀(S):10	0点~90点 9点~80点	
成績評価方法 位認定 総 (実技試験 → 判定))期末試験()確認テスト)課題レポー	合成績60点↓ 60分) 方法\該当す 筆記式・実技 (筆記式・実	る観点→ (式) (技式)	知識・理解 2位	思考・判断	関心・意欲 2位	態度	1位	70 なし	秀(S):10 優(A):8	0点~90点 9点~80点 9点~70点	
成績評価方法 位位認定 総 (実技試験 → 判定 2)期末試験(3)確認テスト)課題レポー)授業態度(3)作品(課題0	会合成績60点以 60分) 方法\該当す 筆記式・実技 (筆記式・実 -ト(授業外) 受業参加状況 D出来映え)	- る観点→ - 式) - 技式)	知識・理解 2位	思考・判断			1位	70 なし 15	秀(S):10 優(A):8 良(B):7	0点~90点 9点~80点 9点~70点 9点~60点	
成績評価方法 位認定 総 (実技試験 → 判定))期末試験()確認テスト)課題レポー)授業態度()作品(課題の)プレゼンテ	会内成績60点点 60分) 方法\該当す 筆記式・実技 (筆記式・実 (等記式・実 で大援業外) 受業参加状況 ひ出来映え)	- る観点→ - 式) - 技式)	知識・理解 2位	思考・判断			1位	70 なし 15 15 なし	秀(S):10 優(A):8 良(B):7 可(D):6	0点~90点 9点~80点 9点~70点 9点~60点 9点以下	
成績評価方法 位位認定 総 (実技試験 → 判定) 別末試験() 確認テスト) 課題レポー) 授業態度() 作品(課題の) プレゼンテ	会内成績60点点 60分) 方法\該当す 筆記式・実技 (筆記式・実 (等記式・実 で、 で、 で、 で、 で、 で、 で、 で、 で、 で、 で、 で、 で、	- る観点→ - 式) - 技式)	知識・理解 2位 2位		2位	1位	1位	70 なし 15 15 なし	秀(S):10 優(A): 8 良(B): 7 可(D): 6 不可(E):5 出席率未達は記	0点~90点 9点~80点 9点~70点 9点~60点 9点以下	
成績評価方法 位位認定 総 (実技試験 → 判定:)期末試験() 迎確認テスト) 砂に認定 総 ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・	会内成績60点点 60分) 方法\該当す 筆記式・実技 (筆記式・実 (筆記式・実 で業参加状況 の出来映え) 上記の半	- る観点→ (式) (技式) (注 (注)	知識・理解 2位 2位 2位 現点に属するも シラバス	のか、優先順位	2位	1位 1位 2位	1位	70 なし 15 15 なし なし 不合格の	秀(S):10 優(A): 8 良(B): 7 可(D): 6 不可(E):5 出席率未達は記	0点〜90点 9点〜80点 9点〜70点 9点〜60点 9点以下 平定しない。	
成績評価方法 単位認定 総 (実技試験 → 判定) 期末試験() 確認テスト) 課題レポー) 砂作品(課題の) プレゼンデ 相手の理解 シャカス ・ の理解 ・ の理解 ・ の理解 ・ の理解 ・ ののである。	会合成績60点点 60分) 方法\該当す 筆記式・実技・ (筆記式・実 ト(授業外) 授業参加状況 ひ出来映え) 上記の半	る観点→ (式) (技式) (人) (人) (人) (色表 (利) (力) (力) (力) (力) (力) (力) (力) (力	知識・理解 2位 2位 2位 現点に属するも	のか、優先順位	2位 をつける。上位	1位	1位	70 なし 15 15 なし なし 不合格の	秀(S):10 優(A): 8 良(B): 7 可(D): 6 不可(E):5 出席率未達は記	0点〜90点 9点〜80点 9点〜70点 9点〜60点 9点以下 平定しない。	
成績評価方法 単位認定 総 (実技試験 → 判定) 期末試験() 確認テスト) 課題レポー) 砂作品(課題の) プレゼンデ 相手の理解 シャカス ・ の理解 ・ の理解 ・ の理解 ・ の理解 ・ ののである。	会内成績60点点 60分) 方法\該当す 筆記式・実技 (筆記式・実 で発参加状況 の出来映え) 上記の当	る観点→ (式) (技式) (注) (注) (注) (注) (注) (注) (注) (注) (注) (注	知識・理解 2位 2位 2位 現点に属するも シラバス	のか、優先順位	2位 をつける。上位	1位 1位 2位	1位	70 なし 15 15 なし なし 不合格の 場合	秀(S):10 優(A):8 良(B):7 可(D):6 不可(E):5 出席率未達は記	0点〜90点 9点〜80点 9点〜70点 9点〜60点 9点以下 平定しない。	
成績評価方法 単位認定 総 (実技試験) 単定 の期末試験(2) の確認テスト の課題レポー のでは、課題の のでは、課題の のでは、課題の のでは、課題の のでは、課題の がは、には、では、には、には、には、には、には、には、には、には、には、には、には、には、には	会内成績60点点 60分) 方法\該当す 筆記式・実技 (筆記式・実 で発参加状況 の出来映え) 上記の当	る観点→ (式) (技式) (注) (注) (注) (注) (注) (注) (注) (注) (注) (注	知識・理解 2位 2位 現点に属するも シラバス 承認者	のか、優先順位	2位 をつける。上位 多	1位 1位 2位	1位	70 なし 15 15 なし なし 不合格の 場合	秀(S):10 優(A):8 良(B):7 可(D):6 不可(E):5 出席率未達は語 再試験	0点〜90点 9点〜80点 9点〜70点 9点〜60点 9点以下 平定しない。	
成績評価方法 単位認定 総 (実技試験 → 判定:) 期末試験() 確認テスト) 課題レポー の授業態度() 作品(課題の) が作品(課題の が下が者 当当教員実務 シラバス 改1 改2	会合成績60点点 60分) 方法\該当す 筆記式・実技 (筆記式・実 (予) (学業参加状況) の出ション・等 上記の半	る観点→ (式) (技式) (注) (注) (注) (注) (注) (注) (注) (注) (注) (注	知識・理解 2位 2位 現点に属するも シラバス 承認者	のか、優先順位	2位 をつける。上位 多 更新箇所	1位 1位 2位	1位 1位 作成	70 なし 15 15 なし なし 不合格の 場合	秀(S):10 優(A):8 良(B):7 可(D):6 不可(E):5 出席率未達は語 再試験	0点~90点 9点~80点 9点~70点 9点~60点 9点以下 平定しない。 まを行う。	
成績評価方法 単位認定 総 (実技試軟 判定: ①期末試験(2) ②確認テスト ③課題レポ度(3) ②課題のでは、 のでは、 のでは、 は、 のでは、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、	会合成績60点点 60分) 方法\該当す 筆記式・実技 (筆記式・実 (予) (学業参加状況) の出ション・等 上記の半	る観点→ (式) (技式) (注) (注) (注) (注) (注) (注) (注) (注) (注) (注	知識・理解 2位 2位 現点に属するも シラバス 承認者	のか、優先順位	2位 をつける。上位 多 更新箇所	1位 1位 2位	1位 1位 作成	70 なし 15 15 なし なし 不合格の 場合	秀(S):10 優(A):8 良(B):7 可(D):6 不可(E):5 出席率未達は語 再試験	0点~90点 9点~80点 9点~70点 9点~60点 9点以下 平定しない。 まを行う。	

科目名		日本語能力3約		学科名		国際自	動車整備科		学年	l学年
授業形態	i	講義	学期	通期	開講年月	2024年4月	該当資格区分	国家資格	I	
教育課程区分		必修	単位数	1	時間数	15時限	該当資格名称	一級・自動車	・二輪自動車	整備士
科目の概要		JLPT (日本	本語能力試験)	N3に合格できる	る力を身につける	5 .				
科目の到達目	目標	JLPT (日本	(語能力試験)	N3相当の読解力	力を身につける。					
教科書名		新完全マスター スリーエーネッ (2014年12月1	・トワーク	語能力試験N3		?				
設備名・機器	器名	PC タブレット プロジェクター	_			関連サイト	なし			
関連前科目		エンジン構造]	-			関連後科目	エンジン整備]	l		
授業計画		I				ı				
回	授業	ミコマの主題(タ	イトル)			授業コマの到達	目標			備考
第1回	基礎力をつ	けよう に慣れよう)		文体・漢語と和	和語					
第2回	基礎力をつ			助詞のような値	動きをする言葉	・文型の組み合	わせ			
第3回	基礎力をつ)	どんな話かをつ	つかむ・「誰が	」「何が」を考	える			
第4回	基礎力をつ (読むスピ	けよう ードを上げよう)	長い文に慣れる	る・知らない言	葉を推測する				
第5回	基礎力をつ (読むスピ	けよう ードを上げよう)	後の内容を予測	則する①・②					
第6回	基礎力をつ (読むスピ	けよう ードを上げよう)	指示語を意識で	する・文章の構	造を理解する				
第7回	基礎力をつ (読むスピ	けよう ードを上げよう)	筆者の気持ちを	を理解する					
第8回	いろいろな	文章を読もう		エッセイ						
第9回	広告・お知	らせなどから情	報を探そう	商品の広告・募	募集広告・パン	フレット				
第10回	広告・お知	らせなどから情	報を探そう	お知らせ・薬の	の飲み方					
第11回	広告・お知	らせなどから情	報を探そう	グラフ・メール	il					
第12回	実戦問題			内容理解(短2	文・中文)					
第13回	実戦問題			内容理解(長)	文)					
第14回	実戦問題			情報検索						
第15回	期末試験			期末試験						
成績評価方法	去									
単位認定 総 (期末試験	合成績60点」 50分間)(6	以上 及び 出版 確認テスト:毎日	奪率90%以上 時限行う場合10	分・範囲ごとに	:行う場合30分)					
	方法\該当す		知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	評価配分%		評価基準
D期末試験(筆		-	1位	2位				70	秀(S):10	
②確認テスト		:抆式)	1位	2位				15	優(A): 8	
3課題レポー		1)			94	1 /		なし	良(B): 7	
り授業態度(抗 なり/課題の		<i>i.)</i>			2位	1位		15	可(D): (
)作品(課題の ()プレゼンテ		企 表					1	なし	不可(E):	
相手の理解		کنی ن						なし	出席率未達は	評定しない。
	上記の判	判定方法がどの勧		のか、優先順位	をつける。上位			不合格の 場合	再試駁	を行う。
シラバス 作成者		喜多	シラバス 承認者	喜	多	授業担当 教員				
旦当教員実務	経験紹介									
更新履歴	重新日本		TIII da	T	= 4x hr		н. в	- - 1 /.	0: :	₩. / 17dm =381 ± 1
シラバス			変更		更新箇所		作成喜			皆(確認者) 喜多
改1 改2	2024/2/5	(株式	久史					9		台夕
改2							1			
LX3										

改4 改5

科目名		キャリアデザイ	ン I	学科名		国際自	動車整備科		学年	l学年
授業形態		講義	学期	通期	開講年月	2024年4月	該当資格区分	国家資格	1	1
教育課程		·····································	単位数	1	時間数	15時限	該当資格名称		·二輪自動車	整備士
<u>区分</u> 科目の概要	1	資格取得(危险	ド式・体育大会 食物取扱者)に	向けた模擬試験	りかわ祭・国内 を通じて目的と	研修等) や就職	戦研修を通して社 こクリアする力を		つける。	
科目の到達	目標	社会人基礎力を	を身につけ第一	生側の運営を担 希望の企業から 的である資格の〕	内定をいただく	•				
教科書名		なし				F				
設備名・機器	器名	PC タブレット プロジェクター	_			関連サイト	なし			
関連前科目		なし				関連後科目	なし			
授業計画										
回	授第	ἔコマの主題(タ	イトル)		-	授業コマの到達	目標			備考
第1回	日本語によ	る自己紹介とプ	'レゼン	日本語で自己約	召介をし簡単な	プレゼンができ	るようになる。			
第2回	日本語によ	る自己紹介とプ	゚レゼン	日本語で自己約	召介をし簡単な	プレゼンができ	るようになる。			
第3回	日本語によ	る自己紹介とプ	レゼン	日本語で自己約	紹介をし簡単な [*]	プレゼンができ	るようになる。			
第4回	体育大会			体育大会を通し	じて日本人とコ	ミュニケーショ	ンがとれるよう	になる。		
第5回	体育大会			体育大会を通し	ごて協調力と運	営力を身につけ	る。			
第6回	日本人のマ	ナーとルール		日本で生活する	際に必要なマナー	ーやルールを守ね	hるようになる。			
第7回	日本人のマ	ナーとルール		日本で生活する	際に必要なマナー	ーやルールを守ね	hるようになる。			
第8回	日本人のマ	ナーとルール		日本で生活する	際に必要なマナー	ーやルールを守ね	hるようになる。			
第9回	夏休みの過	ごし方セミナー		夏期休業中の過	ごし方を全員で	共有しオーバー「	フーク等を行わな	くなる。		
第10回	消防訓練			避難訓練を通じる。	て就職後に店舗に	にて被災した場合	合のお客様誘導が	できるようにな	:	
第11回	ほりかわ祭	:		ほりかわ祭を追	通じて協調力と	運営力を身につ	ける。			
第12回	ほりかわ祭	:		ほりかわ祭を追	通じて協調力と	運営力を身につ	ける。			
第13回	国内研修			国内研修を通し	ごて日本のディ・	ーラーの成り立	ちが理解できる	ようになる。		
第14回	国内研修			国内研修を通し	ごて日本のディ・	ーラーの成り立	ちが理解できる	ようになる。		
第15回	1年間の振り)返り			工科自動車大学 きるようになる。		年間を全員で振	り返り、進級	後	
成績評価方法	去			•					l .	
		以上 及び 出 行事ごとのレポ [・]		·)						
↓判定	方法\該当す	る観点→	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	評価配分%	成績	評価基準
期末試験(筆記式・実技	(式)						なし	秀(S):10	00点~90点
	(筆記式・集	(技式)						なし	優(A): 8	
3課題レポー		- >	2位				1位	70	良(B): 7	
	受業参加状況	1)			2位	1位		30	可 (D) : 6	
作品(課題の		% ±						なし	不可 (E) :5	59点以下
③プレゼンテ 相手の理解』	・ーション・} 隻)	光 表						なし	出席率未達は	評定しない。
TH J ->-III/JF/		判定方法がどの勧	観点に属するも	のか、優先順位	をつける。上位	71位~降順。		不合格の 場合	再試駁	食を行う。
シラバス 作成者		喜多	シラバス 承認者	喜	多	授業担当 教員				
旦当教員実務	経験紹介									
更新履歴			'2m (.	1				. 10	A	Le /ml-mm ***
	更新履歴		理由		更新箇所		作成			者(確認者)
改1	2024/2/5	様式	変更				喜	5	:	喜多
改2										
改3		1		ļ						

改4 改5

科目名	エンジン構造 Ⅱ	単位数	1	学科	国際自動車整備科						
授業形態	講義	対象学生	2年生	開設期	半期						
区分	必修	必修 開設時期 前期 教員実務経験対象 有									
授業概要 (目的、目標とする資格・検定等)	ジーゼル・エンジンとは何か、ガソリン・エンジンとの構造や作動の違い、共	通点等を学習する。									
授業の一般目標	三級自動車ジーゼル・エンジンの国家試験に合格できるレベルの基礎知識	を習得する。									
受講条件	出席率90%以上										
事前学習について (テキスト・参考書等)	三級自動車ジーゼル・エンジン(日本自動車整備振興会連合会)										
授業の到達目標											
□知識・理解の観点	1. ジーゼル・エンジンの部品の名称や、基本的な構造・作動、整備に必要な	な計算式等を理解す	ることが出来る。								
□ 思考・判断の観点	1. 自動車整備について自分の意見を論理的に述べることができる。										
□ 関心・意欲の観点	1. 自動車整備に関する関心を広げ、問題意識を高めることができる。										
□態度の観点	1. 受講を通して自動車整備士として必要な人間性を身に付ける。										
□ 技能・表現の観点											
授業計画(全体)											

各分野の終了時点で確認試験を行なう。確認試験にて70%未満の者は補習を行う。

授業計画(授業単位)

技术計画(技术	≠1147		
	主 題	授 業 内 容	備考
第1回	総論	ジーゼル・エンジンの歴史や概要、ガソリン・エンジンとの違いを理解し、説明することが出来るようになる。	
第2回	総論	電気自動車の概要についての説明が出来るようになる。	
第3回	エンジン本体	シリンダライナや、ピストン・リングの形状、燃焼室の形状などを理解し、説明することが出来るようになる。	
第4回	エンジン本体	バルブ機構の確認やエンジン各部の測定方法、各部のクリアランスが過大または過小の場合エンジンに起こる不具合などを理解し、説明することが出来るようになる。	
第5回	潤滑装置	トロコイド式、ギヤ式各オイル・ポンプの違いの確認とオイルポンプの測定方法を理解し、説明することが出来るようになる。	
第6回	潤滑装置	エンジン・オイルの性状について説明することが出来るようになる。	
第7回	冷却装置	冷却装置の点検整備についての説明が出来るようになる。	
第8回	冷却装置	冷却水の濃度の計算方法を理解し、説明することが出来るようになる。	
第9回	燃料装置	列型インジェクション・ポンプの各部品の名称、構造・作動を理解し、説明することが出来るようになる。	
第10回	燃料装置	分配型インジェクション・ポンプの各部品の名称、構造・作動を理解し、説明することが出来るようになる。	
第11回	燃料装置	コモンレール式高圧燃料噴射装置の各部品の名称、構造・作動を理解し、説明することが出来るようになる。	
第12回	点検 ・ 整備	圧縮圧力の測定についての説明が出来るようになる。	
第13回	点検・ 整備	エンジン脱着時の留意点についての説明が出来るようになる。	
第14回	点検・ 整備	エンジン脱着時の留意点についての説明が出来るようになる。	
第15回	期末試験	期末試験	

成績評価方法

	知識•理解	思考·判断	関心・意欲	態度	技能·表現	その他	評価割合	成績評価基準
定期試験	0	0					70	秀(S):100点~90点
小テスト	0	0	0				15	優(A): 89点~80点
宿題授業外レポート							評価なし	良(B): 79点~70点
授業態度			0	0			15	可(D): 69点~60点
発表·作品							評価なし	不可(E):59点以下
演習							評価なし	
出席			0				欠格条件	
担当教員				実務経験紹介				

科目名	シャシ構造 Ⅱ	単位数	1	学科	国際自動車整備科					
授業形態	講義	対象学生	2年生	開設期	半期					
区分	必修	開設時期	前期	教員実務経験対象	有					
授業概要 (目的、目標とする資格・検定等)	三級自動車シャシ教科書を元にシャシに関する構成及び作動について勉強する。									
授業の一般目標	自動車シャシの部品や構成及び作動の理解を深める。 自動車全体の中での関連した部品の作動についての理解を深める。 整備士の社会責任・職業倫理への理解を深める。									
受講条件	出席率90%以上									
事前学習について (テキスト・参考書等)	三級自動車シャシ (日本自動車整備振興会連合会)									
授業の到達目標										
□ 知識・理解の観点	1. 三級シャシ自動車整備士、国家試験合格レベルの知識習得を目指す。	,								
□ 思考・判断の観点	1. 自動車整備について自分の意見を論理的に述べることができる。									
□ 関心・意欲の観点	1. 自動車整備に関する関心を広げ、問題意識を高めることができる。									
□態度の観点	1. 受講を通して自動車整備士として必要な人間性を身に付ける。									
□ 技能・表現の観点										
授業計画(全体)										

各分野の終了時点で確認試験を行なう。確認試験にて70%未満の者は補習を行う。

授業計画(授業単位)

技术計画(技术	半位/		
	主 題	授 業 内 容	備考
第1回	ブレーキ装置	ブレーキの概要およびマスタ・シリンダの構造を理解し説明できる。	
第2回	ブレーキ装置	ドラム・ブレーキの種類と構造の違いを理解し説明できる。	
第3回	ブレーキ装置	ブレーキシュー/ホイール・シリンダ/オート・アジャスタの構造を理解し説明できる。	
第4回	ブレーキ装置	ディスク・ブレーキの構造、自動調整装置の作用を理解し説明できる。	
第5回	ブレーキ装置	ブレーキ液/ブレーキ安全装置(プロポーショニング・バルブ、LSPV)の構造を理解し、作動を説明できる。	
第6回	ブレーキ装置	真空式制動倍力装置の構造を理解し作動を説明できる。	
第7回	ブレーキ装置	パーキング・ブレーキ機構の種類、構造を理解し作動を説明できる。	
第8回	ステアリング装置	ステアリング装置の概要、操作機構について理解し説明できる。	
第9回	ステアリング装置	ステアリング・ギヤ機構、ステアリング・リンク機構について理解し説明できる。	
第10回	ステアリング装置	油圧式、電動式パワー・ステアリングについて構造を理解し作動を説明できる。	
第11回	ステアリング装置	ステアリング装置の整備・点検方法について理解する。	
第12回	ホイール及びタイヤ	自動車用ホイールの構造、取り付け方法について理解し説明できる。	
第13回	ホイール及びタイヤ	タイヤの構造、呼び、ホイールパランスの仕組みを理解し説明できる。	
第14回	ホイール及びタイヤ	ホイール・アライメントの各要素とその役目を理解し、測定・調整方法を理解する。	
第15回	期末試験	期末試験	

成績評価方法

	知識•理解	思考·判断	関心·意欲	態度	技能·表現	その他	評価割合	成績評価基準
定期試験	0	0					70	秀(S):100点~90点
小テスト	0	0	0				15	優(A): 89点~80点
宿題授業外レポート							評価なし	良(B): 79点~70点
授業態度			0	0			15	可(D): 69点~60点
発表·作品							評価なし	不可(E):59点以下
演習							評価なし	
出席			0				欠格条件	
担当教員				実務経験紹介				

科目名	電気工学Ⅱ	単位数	1	学科	国際自動車整備科						
授業形態	in	対象学生	2年生	開設期	半期						
区分	必修 開設時期 前期 教員実務経験対象 有										
授業概要 (目的、目標とする資格・検定等)	電気の基礎的な内容及び次の各装置について、実習授業と連動させた内容で基礎的な構造作動を学習する。 電子・電気関係(計算含む)、電磁石・電磁誘導、半導体、パッテリ、始動装置、充電装置、点火装置、灯火装置、 計器類、 冷暖房装置										
授業の一般目標	エンジンやシャシにも電装品が使用されており、各分野に共通して電気の知 二年生の電装授業の基礎となる電気の基礎知識を習得する。	識が必要となる。									
受講条件	出席率90%以上										
事前学習について (テキスト・参考書等)	基礎自動車工学 (日本自動車整備振興会連合会)、三級自動車ガソリン・ 三級自動車ジーゼル・エンジン (日本自動車整備振興会連合会)、三級自										
授業の到達目標											
□知識・理解の観点	1. 国家試験三級自動車ガソリンエンジン、ジーゼルエンジン、シャシ合格レ	ベル(電装関係)									
□ 思考・判断の観点	1. 自動車整備について配線図の読み取りを身に付ける。										
□ 関心・意欲の観点	1. 自動車整備に関する関心を広げ、整備技術を身に付ける。										
□態度の観点	1. 受講を通して自動車整備士として必要な人間性を身に付ける。										
□ 技能・表現の観点											
授業計画(全体)											

授業計画(授業単位)

	主 題	授 集 内 容	備考
第1回	充電装置の概要	充電装置の内部の各部品の役目と発電の原理が説明できるようになる。	
第2回	充電装置の点検整備	オルタネータ脱着時の注意事項が言えるようになる。充電装置の点検ができるようになる。	
第3回	点火装置(イグニションコイル)	イグニションコイルの種類と特性を理解し、高電圧の発生原理が説明できるようになる。	
第4回	点火装置(点火タイミング)	点火タイミングの重要性を理解し、進角する時と遅角する時のエンジンの状態が答えられるようになる。	
第5回	点火装置(スパークプラグ、ハイテンションコード)	スパークプラグの種類とその特性が説明できるようになる。	
第6回	点火装置(点検整備)	イグニションコイル、ハイテンションコード、スパークプラグの点検ができ、スパークプラグの状態から適切な熱 価の選択ができるようになる。	
第7回	灯火装置の概要	車両の各灯火装置の役目が答えられるようになる。バルブの種類を理解し、使用されているバルブの選択ができるようになる。	
第8回	灯火装置の作動	各灯火の作動を理解し、特にディマスイッチ及びライトコントロールスイッチの回路で電気の流れが説明できるようになる。	
第9回	灯火装置の作動(前照灯)	2灯式と4灯式の違いを理解し、ヘッドライトの光軸調整の手順が説明できるようになる。	
第10回	ヒューズ(ヒュージブルリンク)	切れたヒューズの状態からどのくらいの過電流が流れたかが判断でき、その後の対処方法が答えられるよう になる。	
第11回	計器類	バイメタル式と交差コイル式及び燃料残量警告灯の作動原理が説明できるようになる。	
第12回	ホーン、ワイパ	ワイパが定位置で停止する原理が説明できるようになる。	
第13回	暖冷房装置、配線	冷たい風や暖かい風が出てくる原理が説明できるようになる。CAN通信によるメリットが答えられるようになる。	
第14回	予熱装置	ジーゼルエンジンにはなぜ必要かを理解し、自己温度制御型グローブラグの作動を説明できるようになる。	
第15回	期末試験	期末試験	

成績評価方法

	知識・理解	思考·判断	関心·意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合	成績評価基準
定期試験	0	0					70	秀(S):100点~90点
小テスト	0	0	0				15	優(A): 89点~80点
宿題授業外レポート							評価なし	良(B): 79点~70点
授業態度			0	0			15	可(D): 69点~60点
発表・作品							評価なし	不可(E):59点以下
演習							評価なし	
出席			0				欠格条件	
担当教員				実務経験紹介				

科目名	基礎自動車工学Ⅱ	単位数	1	学科	国際自動車整備科				
授業形態	請義	対象学生	2年生	開設期	半期				
区分	必修	開設時期	後期	教員実務経験対象	有				
授業概要 (目的、目標とする資格・検定等)	自動車整備を本格的に学んでいくために求められる基礎知識および原理の)概要を習得する							
授業の一般目標	自動車整備を本格的に学んでいくために求められる基礎知識、整備するた	めの基礎、基本を理	解する。						
受講条件	出席率90%以上								
事前学習について (テキスト・参考書等)	基礎自動車工学 (日本自動車整備振興会連合会)								
授業の到達目標									
□知識・理解の観点	1. 内燃機関の基礎知識の習得 2. シャシ関係各装置の構造、機能、作動を習得 3. 三級二輪自動車整備士登録試験の合格ライン								
□ 思考・判断の観点	1. 自動車整備について自分の意見を論理的に述べることができる。								
□ 関心・意欲の観点	1. 自動車整備に関する関心を広げ、問題意識を高めることができる。								
□態度の観点	1. 受講を通して自動車整備士として必要な人間性を身に付ける。								
□ 技能・表現の観点									
超業計画(全体)	•								

授業計画(全体)

各分野の終了時点で確認試験を行なう。確認試験にて70%未満の者は補習を行う。

授業計画(授業単位)

汉本町白 (汉本-	F 127		
0	主 題	授 業 内 容	備考
第1回	燃料	燃料に求められる性質、各種潤滑剤について性質を理解し、説明出来るようになる。	
第2回	熱について	熱の伝導、エネルギーについて、説明出来るようになる。	
第3回	燃焼について・カについて	燃焼と力の発生を説明出来るようになる。	
第4回	カの計算 (摩擦力・偶力・軸トルク)	力と、質量、トルクとモーメント計算について、説明出来るようになる。	
第5回	重心	重心の概念を理解する。前後の重心の位置関係を、計算で求めることが出来るようになる。	
第6回	速度	物体の速度や加速度の計算を理解することで、車の速度や加速度、エンジンの回転速度等の計算が出来るようになる。	
第7回	仕事と仕事率	仕事と仕事率の概念を理解することで、仕事と仕事率の計算が出来るようになる。	
第8回	圧力と応力	圧力の概念(パスカルの原理)を理解することで、油圧式ブレーキなどの倍力作用を計算出来るようになる。	
第9回	電気と磁気	電気と磁気の特性を理解することで、モーターと発電機の作動原理を説明で出来るようになる。	
第10回	電流と電圧	電流と電圧の関係を理解することで、電気回路の基礎的な計算が出来るようになる。	
第11回	電力と電力量	電力と電力量の関係を理解することで、自動車の充電装置やバッテリとアクセサリの電力消費を検討することが出来るようになる。	
第12回	導体・不導体と半導体	導体・不導体および半導体の特性を知ることで、自動車に用いられる各種センサなどに用いられる部品を性 質を説明出来るようになる。	
第13回	自動車の諸元1	自動車の諸元に表記される各種数値の意味を理解し、排気量と圧縮比の計算が出来るようになる。	
第14回	自動車の諸元2 車両質量と自動車の抵抗・駆動力	自動車の車両質量の意味と車両にかかる各種抵抗・駆動力や燃費の計算が出来るようになる。	
第15回	期末試験	後期期末試験	

成績評価方法

	知識・理解	思考•判断	関心·意欲	態度	+++44. = 18	その他	部体制人	成績評価基準
	知誠"理解	芯 有•刊断	関心・息欲	悲度	技能·表現	その他	評価割合	
定期試験	0	0					70	秀(S):100点~90点
小テスト	0	0	0				15	優(A): 89点~80点
宿題授業外レポート							評価なし	良(B): 79点~70点
授業態度			0	0			15	可(D): 69点~60点
発表・作品							評価なし	不可(E):59点以下
演習							評価なし	
出席			0				欠格条件	
担当教員				実務経験紹介				

科目名	エンジン整備 I	単位数	1	学科	国際自動車整備科					
授業形態	講義	対象学生	2年生	開設期	半期					
区分	必修	開設時期	後期	教員実務経験対象	有					
授業概要 (目的、目標とする資格・検定等)	1年時に学んだガソリン・エンジンの本体や各装置の基本構造と機能を理解したうえで、より詳細な特徴や新機構について学ぶ。									
授業の一般目標	ガソリン・エンジンの本体及び、各装置の構造と機能が説明できるようになる。 ガソリン・エンジンの電子制御装置の構造と機能及び、制御について説明できるようになる。									
受講条件	出席率90%以上	出席率90%以上								
事前学習について (テキスト・参考書等)	ニ級ガソリン自動車 エンジン編 (日本自動車整備振興会連合会)、ガソ	Jン・エンジン構造 (全国自動車大学校	· 整備専門学校協会)						
授業の到達目標										
□ 知識・理解の観点	1. 国家資格である二級ガソリン自動車整備士を取得できる知識を身につ	ける。								
□ 思考・判断の観点	1. 自動車整備について自分の意見を論理的に述べることができる。									
□ 関心・意欲の観点	1. 自動車整備に関する関心を広げ、問題意識を高めることができる。	1. 自動車整備に関する関心を広げ、問題意識を高めることができる。								
□態度の観点	1. 受講を通して自動車整備士として必要な人間性を身に付ける。									
□技能・表現の観点										
授業計画(全体)	<u> </u>									

授業計画(授業単位)

□	主 題	授 業 内 容	備考
第1回	総論(ガソリン・エンジンの性能)	熱効率と仕事率及び、体積効率と充填効率について説明できるようになる(正味仕事率及び、機械効率の計算ができるようになる)	
第2回	総論(ガソリン・エンジンの燃焼)	ノッキングの発生原因と防止策及び、有害な排気ガスの発生過程について説明できるようになる	
第3回	総論(排出ガスの浄化)	排出ガスの浄化対策及び、スキッシュ・エリアについて説明できるようになる(有害ガスの低減方法、火炎伝播 速度)	
第4回	エンジン本体(ピストン・リング)	ピストン・リングに起こる異常現象について説明できるようになる(スカッフ現象、スティック現象、フラッタ現象、フラッタ現象の発生頻度)	
第5回	エンジン本体(コンロッド, クランクシャフト)	コンロッド・ベアリングの要素及び、トーショナル・ダンパについて説明できるようになる(肉厚、 クラッシュ・ハイト、張り、 クランクシャフトに働く力)	
第6回	エンジン本体(エンジンの慣性力)	二次慣性力による振動と、バランス・シャフトによる振動の低減について説明できるようになる	·
第7回	エンジン本体(バルブ機構)	可変パルブ機構の構造と作動が説明できるようになる(可変パルブ・タイミング機構,可変パルブ・リフト機構)	
第8回	潤滑装置·冷却装置	油圧の制御及び、電動式ウォータ・ポンプについて説明できるようになる(リリーフ・パルブ、バイパス・パルブ、オイル・クーラ、ファン)	
第9回	燃料装置	電子制御式LPG燃料装置の構造と作動について説明できるようになる(気体噴射式、液体噴射式)	
第10回	吸排気装置	通給機及び可変吸気装置の構造と機能について説明できるようになる(ターボ・チャージャ, スーパ・チャージャ, 可変吸気装置)	
第11回	電子制御装置(センサ)	センサの呼応像と機能について説明できるようになる(パキューム・センサ, スロットル・ポジション・センサ, クランク角センサなど)	
第12回	電子制御装置(アクチュエータ)	アクチュエータの構造と機能について説明できるようになる(インジェクタ, ISCV)	·
第13回	電子制御装置(インジェクタ)	インジェクタの制御について説明できるようになる(駆動方式, 噴射方式)	
第14回	電子制御装置(噴射量の制御)	インジェクタの制御について説明できるようになる(噴射量の制御, 噴射量補正)	
第15回	期末試験	期末試験	

成績評価方法

	知識·理解	思考·判断	関心·意欲	態度	技能·表現	その他	評価割合	成績評価基準
定期試験	0	0					70	秀(S):100点~90点
小テスト	0	0	0				15	優(A): 89点~80点
宿題授業外レポート							評価なし	良(B): 79点~70点
授業態度			0	0			15	可(D): 69点~60点
発表・作品							評価なし	不可(E):59点以下
演習							評価なし	
出席			0				欠格条件	
担当教員				実務経験紹介				

	_										
科目名	シャシ整備 I	単位数	1	学科	国際自動車整備科						
授業形態	講義	対象学生	2年生	開設期	半期						
区分	必修	開設時期	後期	教員実務経験対象	有						
授業概要 (目的、目標とする資格・検定等)	二級自動車シャシ編の教科書に基づきシャシに関する構造及び機能に	二級自動車シャシ編の教科書に基づきシャシに関する構造及び機能についての知識を身につける。									
授業の一般目標	整備士として必要なシャンの構造、作動等の知識を体得する。										
受講条件	出席率90%以上										
事前学習について (テキスト・参考書等)	二級自動車シャシ 二級ガソリン自動車 二級ジーゼル自動車 シャシ係 シャシ構造 I (全国自動車大学校・整備専門学校)、シャシ構造 II (全国										
授業の到達目標											
□ 知識・理解の観点	1. 国家二級整備士合格レベルになるよう教科書に則した内容を知識を 2. 就職後に必要な整備士としての知識や社会貢献するための責任、倫										
□ 思考・判断の観点	1. 自動車整備について自分の意見を論理的に述べることができる。										
□ 関心・意欲の観点	1. 自動車整備に関する関心を広げ、問題意識を高めることができる。										
□態度の観点	1. 受講を通して自動車整備士として必要な人間性を身に付ける。										
□技能・表現の観点											
授業計画(全体)											

授業計画(授業単位)

2277711 - 12271	. —		
	主 題	授 業 内 容	備考
第1回	総論	走行抵抗の各抵抗を理解する。又、駆動力と走行抵抗から最高速度や最大駆動力を読み、余裕駆動力を求め出せるよう、走行性能曲線図が読める。	
第2回	動力伝達装置	MTのクラッチ伝達容量がわかり、ATのトルク・コンパータの原理と性能曲線図が読める。速度比、トルク比、 伝達効率が計算できる。	
第3回	動力伝達装置	プラネタリ・ギヤ式4速ATの構成部品とブラネタリ・ギヤの計算ができる。	
第4回	動力伝達装置	プラネタリ・ギヤ式4速ATの動力伝達 P・N及びRレンジ、1レンジ1速・Dレンジ1速の動力伝達の順序がわかり色塗りができる.	
第5回	動力伝達装置	プラネタリ・ギヤ式4速ATの動力伝達 Dレンジ3速、Dレンジ4速、Dレンジ2速の動力伝達の順序がわかり色 塗りができる.	
第6回	動力伝達装置	電子制御機構と油圧制御機構概要とDレンジの自動変速線図が読める。	
第7回	動力伝達装置	ATのロックアップ機構、安全装置の作動や機構、ATの整備(ストールテストを含む)が説明できる。 CVTの機構と作動が説明できる。	
第8回	動力伝達装置	差動制限型デファレンシャル、インタ・アクスル・デファレンシャルが説明できる。	
第9回	アクスル及びサスペンション	サスペンションの性能、ボデーの振動及び揺動、異音、乗り心地を説明できる。	
第10回	アクスル及びサスペンション	金属、エア・スプリング型サスペンションの特徴を説明できる。	
第11回	アクスル及びサスペンション	エア・コンプレッサの構成部品及び作動を説明できる。	
第12回	アクスル及びサスペンション	電子制御式サスペンション、ショックアブソーバ式とエアサスペンションが説明できる。	
第13回	ステアリング装置	旋回性能(コーナリングフォースとスリップアングル)が説明できる。	
第14回	ステアリング装置	油圧式パワーステアリング、コントロールバルブ作動及びポンプの機構と作動が説明できる。	
第15回	期末試験	期末試験	
	0		

成績評価方法

	知識・理解	思考·判断	関心·意欲	態度	技能·表現	その他	評価割合	成績評価基準
定期試験	0	0					70	秀(S):100点~90点
小テスト	0	0	0				15	優(A): 89点~80点
宿題授業外レポート							評価なし	良(B): 79点~70点
授業態度			0	0			15	可(D): 69点~60点
発表·作品							評価なし	不可(E):59点以下
演習							評価なし	
出席			0				欠格条件	
担当教員				実務経験紹介				

科目名	岳小士 软/进 ▼	24 / 1. 161	_	724.T-1	同晩点も主教供料			
科日名	電装整備 I	単位数	1	学科	国際自動車整備科			
授業形態	講義	対象学生	2年生	開設期	半期			
区分	必修	開設時期	後期	教員実務経験対象	有			
授業概要 (目的、目標とする資格・検定等)	三級整備士の知識である各電装装置の単体学習は1年次に終了している 1年次に学習した各装置の主に電子制御を中心に学習をする。	が、実車においては	整備作業や制御が	複雑となる。				
授業の一般目標	エンジンやシャシにも電装品が使用されており、各分野に共通して電気の知 1年次に学習した電気工学及び電装品単体の知識をもとに、実車において		‡探求が行えるよう!	こなる。				
受講条件	出席率90%以上							
事前学習について (テキスト・参考書等)	二級がソリン自動車 エンジン編(日本自動車整備振興会連合会)、二級ジニ級自動車シャシ 二級がソリン自動車 二級ジーゼル自動車 シャン偏(電装品構造 (全国自動車大学校・整備専門学校協会)			i 整備振興会連合会)				
授業の到達目標								
□ 知識・理解の観点	1. 電装分野において、二級自動車整備技能登録試験の合格者と同等の知 2. サービススタッフとしての心構えやマナーを身につけさせる。	1識を習得する。						
□ 思考・判断の観点	1. 自動車整備について自分の意見を論理的に述べることができる。							
□ 関心・意欲の観点	1. 自動車整備に関する関心を広げ、問題意識を高めることができる。							
□態度の観点	1. 受講を通して自動車整備士として必要な人間性を身に付ける。							
□技能・表現の観点								
受業計画(全体)								

授業計画(授業単位)

	—-		
	主 題	授 業 内 容	備考
第1回	外部診断機	外部診断機でできる作業・使用方法を理解して使えるようになる	
第2回	警報装置	自己診断システムの可能範囲を理解して活用できるようになる	
第3回	半導体	半導体を使った回路の作用が説明できるようになる (整流回路、定電圧回路)	
第4回	半導体	半導体を使った回路の作用が説明できるようになる (スイッチング増幅回路、発振回路)	
第5回	半導体	論理回路の記号と役割を理解して使えるようになる	
第6回	バッテリ	起電力と電解液比重の関係が説明できるようになる	
第7回	バッテリ	バッテリの特性を理解して説明できるようになる (性能特性、容量、自己放電)	
第8回	バッテリ	バッテリの特性を理解して説明できるようになる (始動性能、電解液の比重と温度、バッテリの寿命)	
第9回	始動装置	ブラネタリギヤ式スタータの特性を理解して説明できるようになる	
第10回	始動装置	プラネタリギヤ式スタータの特性を理解して説明できるようになる	
第11回	始動装置	スタータの点検整備ができるようになる	
第12回	充電装置	三相交流の発生の仕組み・結線の違いによる特長を 理解して説明できるようになる	
第13回	充電装置	中性点ダイオード付オルタネータの利点と 三相全波整流の仕組みが説明できるようになる	
第14回		ボルテージレギュレータの機能が説明できる オルタネータの点検作業ができるようになる	
第15回	期末試験	期末試験	_

成績評価方法

	知識・理解	思考·判断	関心·意欲	態度	技能·表現	その他	評価割合	成績評価基準
定期試験	0	0					70	秀(S):100点~90点
小テスト	0	0	0				15	優(A): 89点~80点
宿題授業外レポート							評価なし	良(B): 79点~70点
授業態度			0	0			15	可(D): 69点~60点
発表·作品							評価なし	不可(E):59点以下
演習							評価なし	
出席			0				欠格条件	
担当教員				実務経験紹介				

科目名	エンジン実習Ⅱ	単位数	4	学科	国際自動車整備科					
授業形態	実習	対象学生	2年生	開設期	通期					
区分	必修	必修 開設時期 通期 教員実務経験対象 有								
授業概要 (目的、目標とする資格・検定等)	1年時に学んだガソリン・エンジン及び、ジーゼル・エンジンの本体や名点検及び調整方法をを身に付ける。	1年時に学んだガソリン・エンジン及び、ジーゼル・エンジンの本体や各装置の基本的な整備技術を理解した上で、より高度な整備技術や、エンジンの 点検及び調整方法をを身に付ける。								
授業の一般目標	国家資格である、二級ガソリン自動車整備士及び、二級ジーゼル自動車整備士としての整備技術を身に付ける。									
受講条件	出席率90%以上	出席率90%以上								
事前学習について (テキスト・参考書等)	二級ガソリン自動車 エンジン編 (日本自動車整備振興会連合会)、三級自動車ガソリン・エンジン (日本自動車整備振興会連合会)、三自動車整備工具・機器 (全国自動車大学校・整備専門学校協会)、自	級自動車ジーゼル・エン	ジン(日本自動車	整備振興会連合会)、	ξ),					
授業の到達目標										
1. 工具を使用し、マニュアルを見ながら整備作業が出来るようになる。 □ 知識・理解の観点 2. 整備機器や各種テスタを正しく使用し、エンジンや各装置の点検、調整が出来るようになる。 3. フローチャートを用いた故障探究が出来るようになる。										
□ 知識・理解の観点										
□ 知識・理解の観点 □ 思考・判断の観点										
	3. フローチャートを用いた故障探究が出来るようになる。									
□ 思考・判断の観点	3. フローチャートを用いた故障探究が出来るようになる。 1. 自動車整備について自分の意見を論理的に述べることができる。									
□ 思考・判断の観点 □ 関心・意欲の観点	3. フローチャートを用いた故障探究が出来るようになる。 1. 自動車整備について自分の意見を論理的に述べることができる。 1. 自動車整備に関する関心を広げ、問題意識を高めることができる。									

各分野の終了時点で確認試験を行なう。

授業計画(授業単位)

0	主 題	授 葉 内 容	備考
第1回	列型インジェクション・ボンプの単体点検及び、分配型 インジェクション・ボンブの噴射時期の調整	インジェクション・ボンブ・テスタによる列型インジェクション・ボンブの点検、調整及びトップクリアランスの点検が出来るようになる。 メジャリング・デバイスを使用し、分配型インジェクション・ボンブの燃料噴射時期の調整が出来るようになる。	
第2回	内燃機関の性能試験及び、エンジン性能曲線図の作成	内燃機関総合性能試験機の構造と取扱いを学び、エンジンの軸出力、軸トルク、燃料消費率、熱効率を算出 しエンジン性能曲線図が作成出来るようになる。	
第3回	フローチャートを用いたエンジンの故障探究	故障探究の手法を学び、フローチャートを用いたガソリン・エンジンの故障探究が出来るようになる。	
第4回	ロータリ・エンジンの点検及び、測定	マッダ13Bロータリ・エンジンの分解及び、構成部品の点検と測定を行うことで、SSTの正しい使用方法及び、ロータリ・エンジンの特徴並びに、構成部品の名称と機能が説明出来るようになる。	

成績評価方法

単位認定 総合成績60点 出席率90%以上 本試験70%、レポート点15%、態度点15%

	知識・理解	思考·判断	関心·意欲	態度	技能·表現	その他	評価割合	成績評価基準
定期試験	0	0		0	0		70	秀(S):100点~90点
小テスト							評価なし	優(A): 89点~80点
宿題授業外レポート	0		0			0	15	良(B): 79点~70点
授業態度			0	0			15	可(D): 69点~60点
発表·作品					0		定期試験に含む	不可(E):59点以下
演習							評価なし	
出席			0				欠格条件	
担当教員				実務経験紹介				

科目名	シャシ実習Ⅱ	単位数	4	学科	国際自動車整備科					
授業形態	実習	対象学生	2年生	開設期	通期					
区分	必修	必修 開設時期 通期 教員実務								
授業概要 (目的、目標とする資格・検定等)	1年次に体得した基礎知識を基にその応用実習で、整備地識や技術の 不具合現象の確認ができ、的確な故障診断ができる知識を習得する。	1年次に体得した基礎知識を基にその応用実習で、整備地識や技術の向上を図る。 不具合現象の確認ができ、的確な故障診断ができる知識を習得する。								
授業の一般目標	整備士として必要なシャシの知識を身につける。 故障診断作業の技術を習得する。									
受講条件	出席率90%以上	出席率90%以上								
事前学習について (テキスト・参考書等)	二級ガソリン・ジーゼル自動車 シャシ縄 (日本自動車整備振興会連シャシ構造 I (全国自動車大学校・整備専門学校協会)、シャシ構造									
授業の到達目標										
□ 知識・理解の観点	1. 国家二級整備士試験合格レベルになるよう教科書等に則した内容 2. 就職後の仕事に差し支えない整備士としての基礎知識を体得する。									
□ 思考・判断の観点	1. 自動車整備について自分の意見を論理的に述べることができる。									
□ 関心・意欲の観点	1. 自動車整備に関する関心を広げ、問題意識を高めることができる。									
□ 態度の観点	1. 受講を通して自動車整備士として必要な人間性を身に付ける。	1. 受講を通して自動車整備士として必要な人間性を身に付ける。								
□ 技能・表現の観点	な能・表現の観点 1. 自動車整備士として必要な整備技術と説明力を身に付ける。									

各分野の終了時点で確認試験を行なう。

授業計画(授業単位)

	主題	授 業 内 容	備考
***	ステアリング装置	ステアリング操作機構、ギヤ機構、リンク機構が説明できる。 ラックピニオン型ギヤボックス及びボールナット型ギヤボックスの分解・組立ができる。	
第1回	ホイール及びタイヤ	ホイール及びタイヤの呼称、タイヤの構造の違いを説明できる。 タイヤの脱着及びホイール・バランスが調整できる。 チューブ・タイプとチューブ・レスのタイヤのパンク修理ができる。	
第2回	ブレーキ装置	ブレーキ装置真空式制動倍力装置の作動が説明できる。 ブレーキの種類と構造、機能が説明できる。 ドラム・ブレーキとディスク・ブレーキ分解・組立とシールの交換ができる。	
第3回	動力伝達装置	オートマチック・トランスミッションの基礎・各構成部品の構造と働き、動力伝達、変速比が説明できる。 オートマチック・トランスミッションの応用4速ATの分解組立作業ができる。動力伝達、電子制御AT及びロックアップ機構が説明できる。 CVTの動きを見る。 ドライブシャフトの車両からの脱着及びオーバホールが作業ができる。	
第4回	ステアリング装置	油圧式及び電動式パワー・ステアリングが説明できる。 油圧式PSラック・ピニオン型、インテグラル型、リンケージ型の分解組立ができる。 ギヤ・ボックスのコントロール・バルブ部比較とオイル・ポンプ分解組立、ができる。	
	動力伝達装置	差動制限型ディファレンシャルの分解・組立ができ、ノーマルデフとの違い及び差動が説明できる。 —	

成績評価方法

単位認定 総合成績60点 出席率90%以上 本試験70%、レポート点15%、態度点15%

	知識・理解	思考·判断	関心·意欲	態度	技能·表現	その他	評価割合	成績評価基準
定期試験	0	0		0	0		70	秀(S):100点~90点
小テスト							評価なし	優(A): 89点~80点
宿題授業外レポート	0		0			0	15	良(B): 79点~70点
授業態度			0	0			15	可(D): 69点~60点
発表·作品					0		定期試験に含む	不可(E):59点以下
演習							評価なし	
出席			0				欠格条件	
担当教員				実務経験紹介				

科目名	電装実習Ⅱ	単位数	4	学科	国際自動車整備科				
授業形態	実習	対象学生	2年生	開設期	通期				
区分	必修 開設時期 通期 教員実務経験対象 有								
授業概要 (目的、目標とする資格・検定等)	1年次に習得した基礎知識を土台に応用力を身に付け整備技術、能力の幅を広げる。 電気回路の故障診断に必要な外部診断機、テスタ類の取り扱いが出来る技術を習得させる。								
授業の一般目標	整備士として必要な電気の基礎を身に付け故障診断ができる技術を習得する。								
受講条件	出席率90%以上								
事前学習について (テキスト・参考書等)	基礎自動車工学 (日本自動車整備振興会連合会)、二級ガソリン自動車 二級ジーゼル自動車 エンジン編 (日本自動車整備振興会連合会)、電影	エンジン編 (日本! 長品構造 (全国自動	自動車整備振興会 車大学校・整備専「	連合会)、 門学校協会)					
授業の到達目標									
□ 知識・理解の観点	1. 配線図の読み取り方法								
□ 思考・判断の観点	1. 自動車整備について自分の意見を論理的に述べることができる。								
□ 関心・意欲の観点	1. 自動車整備に関する関心を広げ、問題意識を高めることができる。								
□態度の観点	1. 受講を通して自動車整備士として必要な人間性を身に付ける。								
□ 技能・表現の観点	□ 技能・表現の観点 1. 自動車整備士として必要な整備技術と説明力を身に付ける。								
授業計画(全体)									

各分野の終了時点で確認試験を行なう。

授業計画(授業単位)

	主題	授業内容	備考
第1回	半導体	ダイオード・ツェナダイオード・発光ダイオード・ホトダイオード トランジスタ・コンデンサの各半導体の回路接続と点検ができるようになる。	
7		トランジスタの増幅率について理解する。 必要な電流制限抵抗値を求めて、LEDなどの回路が作成できるようになる。	
	始動装置	アーマチュア、フィールド、ブラシ、マグネットスイッチの 各装置の点検ができるようになる。 スタータの無負荷特性テストが行えるようになる。	
第2回	充電装置	ロータ、ステータ、ダイオード、ボルテージレギュレータの 各装置の点検ができるようになる。 オンロスコープが取り扱えるようになる。	
第3回	点火装置	イグニションコイル、ハイテンションコード、スパークブラグの 点検が行えるようになる。 スパークブラグの状態を見て、熱価の選択ができるようになる。	
第3回	灯火装置、計器類、ボデー電装	灯火装置の回路が組めるようになる。 適切なリレーを使用して、回路が組めるようになる。 燃料計を例にして、指針の動く原理が説明できるようになる。 スイッチの導通表を基にワイバの回路が組めるようになる。	
Mr. 4 E	机乱 水色针型	実車を利用してスタータ・モータの脱着 車上点検・単品部品の分解、点検測定、組み立て。	
第4回	始動 充電装置	オルタネータ、ボルテージレギュレターの構造、作動 車上のオルタ・ネータを脱着し発生電圧を測定、注接点ダイオード付きオルタ・ネータ出力特性	

成績評価方法

-単位認定 総合成績60点 出席率90%以上 本試験70%、レポート点15%、態度点15%

	知識・理解	思考·判断	関心・意欲	態度	技能·表現	その他	評価割合	成績評価基準
定期試験	0	0		0	0		70	秀(S):100点~90点
小テスト							評価なし	優(A): 89点~80点
宿題授業外レポート	0		0			0	15	良(B): 79点~70点
授業態度			0	0			15	可(D): 69点~60点
発表·作品					0		定期試験に含む	不可(E):59点以下
演習							評価なし	
出席			0				欠格条件	
担当教員				実務経験紹介				

科目名			総合	·実習 II		単位数	4	学科	国際自動車整備科				
受業形態			3	実習		対象学生	2年生	開設期	通期				
区分			ļ.	 込修		開設時期	通期	教員実務経験対	対象 有				
受業概要 目的、目標とする資	格·検定等)		。整備士として必	結果を説明するだけでなく整備士として、お客様へ車のメンテナンスや安心安全へのアドバイスが出来るような接客応酬要な知識でもある、積載車(ウインチ)の取り扱いについて学習し安全作業を身につける。また、自動車の点検方法だけでなく、 歳を身につける。									
受業の一般目標	票	二輪自動車の点核 自動車定期点検の 積載車(ウインチ)	食内容を学習し、E)整備内容を理解 の取り扱いを理解	日輪自動車との違いを理解する。 し、お客様への車の適切なアドバイスが出来る接客応酬話法を身につける。 し、安全作業を身につける。									
受講条件		出席率90%以上											
事前学習につし テキスト・参考				本自動車整備振興会連合会)、シャシ構造 I (全国自動車大学校・整備専門学校協会) 整備専門学校協会)									
受業の到達目標	票												
〕知識・理解 <i>σ</i>)観点				、て点検の流れや項目を理解し、作業や各部品の良否判断ができるようになる。 整備の遠いを理解する。								
] 思考•判断の)観点	1. 自動車整備に	ついて自分の意見	を論理的に述べる	ことができる。								
] 関心·意欲σ)観点	1. 自動車整備に	関する関心を広げ	、問題意識を高める	らことができる。								
〕態度の観点		1. 受講を通して自	動車整備士として	び要な人間性を身	に付ける。								
 □ 技能·表現σ)観点	1. 自動車整備士	として必要な整備	技術と説明力を身に	 :付ける。								
受業計画(全体)			<u> </u>									
各分野の終了時	寺点で確認試験を	行なう。											
受業計画(授業	単位)												
		主 題				授業内容	!		備考				
第1回	二輪自動車の点	点検作業		二輪自動車の点検整備内容を理解し正確に作業を行う。 点検結果の良否を判断し不具合箇所については必要な整備作業を行う。 点検で行った内容を伝え、点検結果をお客様に説明する。									
第2回	定期点検整備(接客応酬話法	の実施)		定期点検(12ヶ月点検)の手順を理解し良否の判断を行う。 特定整備の概要説明、各メーカー車両にて点検作業をする。 お客様への車のメンテナンスや安心安全へのアドバイスを行う。									
	積載車(ウイン	ナ)の取り扱い		積載車(ウインチ)の取り扱いについて理解する。 積載車(ウインチ)の安全作業の実施。									
第3回	自動車の車検作	業		検査作業が記録簿に基づいて作業が出来、部品の良否判断や各部の点検、調整が出来るように なる。									
第4回	自動車の検査作	- 業		検査ラインを使用しさまざまな検査機器の使用方法と測定、調整の技術を習得して、自動車検査 員の業務を理解し保安基準適合証の記入が出来るようになる。									
成績評価方法													
位認定 総合		ポート点15%、態度	点15%										
	知識·理解 思考·判断			関心·意欲	態度	技能·表現	その他	評価割合	成績評価基準				
三期試験 ・ニュー	0 0				0	0		70	秀(S):100点~90点				
ヽテスト 『題授業外レオ		@						評価なし	優(A): 89点~80点 良(B): 79点~70点				
■超授業外レオ 受業態度	トレホート ⊚			0	©		0	15	艮(B): /9点~/0点 可(D): 69点~60点				
表·作品					•	0			不可(E):59点以下				
								評価なし					
省					1		1						
6習 				0				欠格条件					

科目名	企業技術講習 I	単位数	2	学科	国際自動車整備科				
授業形態	実習	対象学生	2年生	開設期	通期				
区分	必修	開設時期	通期	教員実務経験対象	有				
授業概要 (目的、目標とする資格・検定等)	国内メーカーや海外メーカーの自動車販売会社様の協力により行う技術講職業実践専門課程認証校としての取り組む授業	国内メーカーや海外メーカーの自動車販売会社様の協力により行う技術講習会で、最新技術や業界の近況を知ることのできる授業 職業実践専門課程認証校としての取り組む授業							
授業の一般目標	国内メーカーや海外メーカーの最新技術を現場で働くプロから学び新しい技	国内メーカーや海外メーカーの最新技術を現場で働くプロから学び新しい技術を身につけるとともに、就職活動にも役立つ業界研究を行う							
受講条件	出席率90%以上								
事前学習について (テキスト・参考書等)	なし								
授業の到達目標									
□知識・理解の観点	1. 各メーカー様及び、担当していただく各企業様の内容に準じるため各回。	ごとに定める。(下記	授業計画は次年度	(の予定)					
□ 思考・判断の観点	1. 自動車整備について自分の意見を論理的に述べることができる。								
□ 関心・意欲の観点	1. 自動車整備に関する関心を広げ、問題意識を高めることができる。	1. 自動車整備に関する関心を広げ、問題意識を高めることができる。							
□ 態度の観点	1. 受講を通して自動車整備士として必要な人間性を身に付ける。								
□ 技能・表現の観点									
授業計画(全体)									

授業計画(授業単位)

	主 題	授 業 内 容	備考
第1回	EV・PHEV ~ゼロエミッション~	PHEV車を学び基本的な整備ができるようになる。	三菱
第2回	スカイアクティブテクノロジー ~次世代クリーンディーゼル~	スカイアクティブテクノロジーを学び基本的な整備ができるようになる。	マツダ
第3回	Honda Handling 〜車両取り扱い〜	ホンダ車を題材に車両の取り扱い時の注意点を学び整備士に相応しい車両の取り扱いができるようになる。	ホンダ
第4回	大型車両の整備	大型車の構造を学び基本的な整備ができるようになる。	いすゞ
第5回	最新ASV アイサイト	自動運転に必要なセンサー類のエーミングについて基礎準備ができるようになる。	スバル
第6回	Life On Board ~先進の車内快適環境~	自動運転や全方位モニター等の基本整備ができるようになる。	日産
第7回	The Best or Nothing ~最高でなければ意味がない~	高級輸入車の各種装備と取り扱い、整備士としての考え方を学びお客様に信頼いただける対応ができるよう になる。	メルセデス・ベンツ
第8回	グローバルプラットフォーム	OEM車両等の共通部品について学び、OEM車であっても違いがあることを理解し整備できるようになる。	VW・アウディ
第9回	Working Saftey ~安全作業~	整備現場で発生する事故を想定し体験することにより安全作業を身につける。	トヨタ
第10回	SDS-Ⅱ ~トラブルシューティング~	外部診断器を使用した故障診断ができるようになる。	スズキ
第11回	FCEV 〜燃料電池・次世代燃料車〜	水素燃料を搭載した車両の点検整備ができるようになる。	トヨタ
第12回	物流ソリューション	フォークリフトの点検方法と倉庫内自動運転車両を学び基本的な整備ができるようになる。	トヨタL&F
第13回	ロードサービス	路上での故障車両または事故車両の取り扱いができるようになる。	JAF
第14回	レース使用車両と市販車	レース車両と市販車両の違いを理解し、それぞれに適した整備ができるようになる。	トヨタ
第15回	リアルスポーツカー	ロード・ゴーイング・スポーツカーの取り扱いができるようになる。	マクラーレンアストンマーティン

成績評価方法

	知識•理解	思考·判断	関心·意欲	態度	技能·表現	その他	評価割合	成績評価基準
定期試験	0	0					70	秀(S):100点~90点
小テスト	0	0	0				15	優(A): 89点~80点
宿題授業外レポート							評価なし	良(B): 79点~70点
授業態度			0	0			15	可(D): 69点~60点
発表·作品							評価なし	不可(E):59点以下
演習							評価なし	
出席			0				欠格条件	
担当教員				実務経験紹介				

科目名			日本		単位数	1	学科	国際自動車整備科			
受業形態				講義		対象学生	2年生	開設期	通期		
≅分				必修		開設時期	通期	教員実務経験対象			
受業概要 (目的、目標とする資	格·検定等)	JLPT(日本語能	JLPT(日本語能力試験)N2に合格できる力を身につける。								
受業の一般目標	票	JLPT(日本語能:	PT(日本語能力試験)N2相当の読解力を身につける。								
受講条件		出席率90%以上									
事前学習につし (テキスト・参考		新完全マスター読	解 日本語能力	試験N2(スリーエー)	ネットワーク)						
受業の到達目											
□知識・理解の)観点	1. N2レベルの誘	解力がある。								
□ 思考·判断 <i>0</i>)観点	1. 自動車整備に	ついて自分の意見	見を論理的に述べるこ	とができる。						
□ 関心·意欲 <i>0</i>)観点	1. 自動車整備に	関する関心を広り	げ、問題意識を高める	ことができる。						
□ 態度の観点		1. 受講を通して目	自動車整備士とし	て必要な人間性を身に	こ付ける。						
□ 技能・表現の)観点										
受業計画(全体	:)	•									
各分野の終	冬了時点で確認試 !	験を行なう。確認試験	険にて70%未満 <i>0</i>)者は補習を行う。							
受業計画(授業	単位)										
0		主題				授業内容			備考		
第1回	評論・解説・エッ	セイなど		文章の仕組みを理解	する。						
第2回	評論・解説・エッ	セイなど		文章の仕組みを理解	する。						
第3回	評論・解説・エッ	セイなど		文章の仕組みを理解	する。						
第4回	評論・解説・エッ	セイなど		問いを解く技術をみり	こつける。						
第5回	評論・解説・エッ	セイなど		問いを解く技術をみにつける。							
第6回	評論・解説・エッ	セイなど		問いを解く技術をみにつける。							
第7回	広告・お知らせた	など		全体をつかむ。							
第8回	広告・お知らせた	など		全体をつかむ。							
第9回	広告・お知らせた			情報を探し出す。							
第10回	広告・お知らせた	 など		情報を探し出す。							
第11回	実戦問題	-		内容理解(中文)							
第12回	実戦問題			主張理解(長文)							
第13回	実戦問題			統合理解							
第14回	実戦問題			情報検索							
	期末試験			期末試験							
第15回	ガ木叫釈			为个政政							
式績評価方法 ■ ※ ☆	式结60上 川安士	0004121 5									
- 立心足 総合 式績点70%、提	成績60点、出席率 出物&授業態度2	:90%以上 0%、出席点10%を	換算して総合評価	折を行う 。							
		知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合	成績評価基準		
定期試験		0	0			0			秀 (S):100点~90点		
小テスト									優 (A):89点~80点		
宿題授業外	レポート			_	_				良 (B):79点~70点		
授業態度				0	0				可 (D):69点~60点		
2×± /			A. Control of the Con								
発表・作品 演習									不可(E):59点以下		

実務経験紹介

担当教員

科目名	キャリアデザインⅡ	単位数	1	学科	国際自動車整備科				
授業形態	講義·実習	対象学生	2年生	開設期	通期				
区分	必修	開設時期	通期	教員実務経験対象	有				
授業概要 (目的、目標とする資格・検定等)	留学生に対する、社会生活における必要な日本語教育と、日本での生活及	留学生に対する、社会生活における必要な日本語教育と、日本での生活及び将来設計についてや、ビジネス能力の向上が図れる学びを提供する。							
授業の一般目標	日本語での会話、基本的なコミュニケーションなど留学生として身に付けてな 社会人、職業人として適応するためにみにつけておくべきことを学ぶ。	日本語での会話、基本的なコミュニケーションなど留学生として身に付けておくべきことを学ぶ。 社会人、職業人として適応するためにみにつけておくべきことを学ぶ。							
受講条件	出席率90%以上								
事前学習について (テキスト・参考書等)	なし								
授業の到達目標									
□ 知識・理解の観点	1. 留学生に期待される社会人、職業人を目指せるようになる。								
□ 思考・判断の観点	1. 自動車整備について自分の意見を論理的に述べることができる。								
□ 関心・意欲の観点	1. 自動車整備に関する関心を広げ、問題意識を高めることができる。								
□ 態度の観点	1. 受講を通して自動車整備士として必要な人間性を身に付ける。								
□ 技能・表現の観点	1. 自動車整備士として必要な整備技術と説明力を身に付ける。								
授業計画(全体)									

社会人 職業人に必要な常識や所作、言葉使いを学ぶ。

授業計画(授業単位)

汉朱川四(汉朱	F 12 /		
	主 題	授 業 内 容	備考
第1回	ビジネスとコミュニケーションの基本	ビジネス所作 自己紹介の文章化	
第2回	ビジネスとコミュニケーションの基本	漢字テスト N2レベル	
第3回	ビジネスとコミュニケーションの基本	求人票の内容説明 どんな会社に行きたいか。	
第4回	ビジネスとコミュニケーションの基本	留学生のためのキャリアワークブック①	
第5回	ビジネスとコミュニケーションの基本	留学生のためのキャリアワークブック②	
第6回	ビジネスとコミュニケーションの基本	自分史をつくる	
第7回	ビジネスとコミュニケーションの基本	自分史を語る 自動車関係語彙テスト	
第8回	ビジネスとコミュニケーションの基本	交通に関する語彙 履歴書の書き方	
第9回	ビジネスとコミュニケーションの基本	家族、親戚関係の語彙 自己PRについて	
第10回	ビジネスとコミュニケーションの基本	学校に関する語彙 自己PR確認、作成	
第11回	ビジネスとコミュニケーションの基本	自己PR発表	
第12回	ビジネスとコミュニケーションの基本	漢字テスト 死ぬまでにしたいことについて	
第13回	ビジネスとコミュニケーションの基本	カタカナについて 死ぬまでにしたいこと	
第14回	ビジネスとコミュニケーションの基本	夏の企業説明会について 挨拶練習	
第15回	ビジネスとコミュニケーションの基本	就職ガイダンス 所作、服装、身だしなみ点検	

成績評価方法

	I			1				
	知識•理解	思考·判断	関心·意欲	態度	技能·表現	その他	評価割合	成績評価基準
定期試験	0	0					70	秀(S):100点~90点
小テスト	0	0	0				15	優(A):89点~80点
宿題授業外レポート							評価なし	良(B): 79点~70点
授業態度			0	0			15	可(D): 69点~60点
発表·作品							評価なし	不可(E):59点以下
演習							評価なし	
出席			0				欠格条件	
担当教員				実務経験紹介				

科目名	自動車工学	単位数	2	学科	国際自動車整備科			
授業形態	講義	対象学生	3年生	開設期	通期			
区分	必修	開設時期	通期	教員実務経験対象	有			
授業概要 (目的、目標とする資格・検定等)	自動車を構成しているネジや歯車などの"部品の部品"や、ガソリンやオイルなどの性質、それと、車の作動を理解するために必要な、基本的な原理・法則や、 その計算方法等について解説します。							
授業の一般目標	自動車整備を本格的に学んでいくために求められる基礎知識および原理の概要を習得する							
受講条件	出席率90%以上							
事前学習について (テキスト・参考書等)	基礎自動車工学 (日本自動車整備振興会連合会)							
授業の到達目標								
□ 知識・理解の観点	1. 自動車に用いられている"部品の部品"の概要造及び自動車の作動や記	またに関係する基本 しょうしょう しょうしょう しょうしん しんしん かいかん かいかん かいかん かいかん かいかん しんかん かいかん かい	的な原理・法則とそ	の計算方法に触れるこ	٤٤.			
□ 思考・判断の観点	1. 自動車整備について自分の意見を論理的に述べることができる。							
□ 関心・意欲の観点	1. 自動車整備に関する関心を広げ、問題意識を高めることができる。							
□ 態度の観点	1. 受講を通して自動車整備士として必要な人間性を身に付ける。							
□ 技能・表現の観点	技能・表現の観点 1. 自動車整備士として必要な整備技術と説明力を身に付ける。							
授業計画(全体)								

各分野の終了時点で確認試験を行なう。確認試験にて70%未満の者は補習を行う。

授業計画(授業単位)

汉末川四(汉末-	丰 [
	主 題	授 集 内 容	備考
第1回	燃料	ガソリンや軽油、LPガスとは何か。燃料に求められる性質が、ガソリンと軽油では違うことを理解するほか、各種潤滑剤についても要求される性質が異なることを理解する。	
第2回	熱について	暖機運転が必要な理由の一つが、この授業で分かります。	
第3回	燃焼について・カについて	エンジンはガソリンや軽油等を燃やし、カに変えている。 その2つについて概説を行う。	
第4回	カの計算 (摩擦力・偶力・軸トルク)	力と、質量。トルクと、モーメント。計算に使う概念を中心に解説します。	
第5回	重心	重心の概念を理解することで、転倒しにくい車にする方法を説明できるようになる。 また、前後の重心の位置関係を、計算で求めることができるようになる。	
第6回	速度	物体の速度や加速度の計算を理解することで、車の速度や加速度、エンジンの回転速度等の計算ができるようになる。	
第7回	仕事と仕事率	仕事と仕事率の概念を理解することで、仕事と仕事率の計算ができるようになる。	
第8回	圧力と応力	圧力の概念(パスカルの原理)を理解することで、油圧式ブレーキなどの倍力作用を計算できるよう になる	
第9回	電気と磁気	電気と磁気の特性を理解することで、モーターと発電機の作動原理を説明できるようになる。	
第10回	電流と電圧	電流と電圧の関係を理解することで、電気回路の基礎的な計算ができるようになる。	
第11回	電力と電力量	電力と電力量の関係を理解することで、自動車の充電装置やバッテリとアクセサリの電力消費を検討することができるようになる	
第12回	導体・不導体と半導体	導体・不導体および半導体の特性を知ることで、自動車に用いられる各種センサなどに用いられる 部品を性質を説明できるようになる。	
第13回	自動車の諸元 1 寸法・排気量と圧縮比	自動車の諸元に表記される各種数値の意味を理解し、計算ができるようになる	
第14回	自動車の諸元 2 車両質量と自動車の抵抗・駆動力	自動車の車両質量の意味と車両にかかる各種抵抗・駆動力や燃費の計算ができるようになる。	·
第15回	期末試験	期末試験	

成績評価方法

	I			1				
	知識•理解	思考·判断	関心·意欲	態度	技能·表現	その他	評価割合	成績評価基準
定期試験	0	0					70	秀(S):100点~90点
小テスト	0	0	0				15	優(A):89点~80点
宿題授業外レポート							評価なし	良(B): 79点~70点
授業態度			0	0			15	可(D): 69点~60点
発表·作品							評価なし	不可(E):59点以下
演習							評価なし	
出席			0				欠格条件	
担当教員				実務経験紹介				

科目名	エンジン整備 Ⅱ	単位数	1	学科	国際自動車整備科			
授業形態	講義	対象学生	3年生	開設期	半期			
区分	必修	開設時期	前期	教員実務経験対象	有			
授業概要 (目的、目標とする資格・検定等)	2年時に学んだジーゼル・エンジンの本体や各装置の基本構造と機能を理	2年時に学んだジーゼル・エンジンの本体や各装置の基本構造と機能を理解したうえで、より詳細な特徴や新機構について学ぶ。						
授業の一般目標	ジーゼル・エンジンの本体及び、各装置の構造と機能が説明できるようになる。 ジーゼル・エンジンの電子制御装置の構造と機能及び、制御について説明できるようになる。							
受講条件	出席率90%以上							
事前学習について (テキスト・参考書等)	二級ジーゼル自動車 エンジン編(日本自動車整備振興会連合会)、ジーセ	・エンジン構造(<u>f</u>	È国自動車大学校・	整備専門学校)				
授業の到達目標								
□知識・理解の観点	1. 国家資格である二級ジーゼル自動車整備士を取得できる知識を身につ	ける。						
□ 思考・判断の観点	1. 自動車整備について自分の意見を論理的に述べることができる。							
□ 関心・意欲の観点	1. 自動車整備に関する関心を広げ、問題意識を高めることができる。							
□態度の観点	1. 受講を通して自動車整備士として必要な人間性を身に付ける。							
□技能・表現の観点								
授業計画(全体)								

授業計画(授業単位)

汉末川四(汉末-	年 区/		
	主 題	授 業 内 容	備考
第1回	総論(ジーゼル・エンジンの燃焼)	ジーゼル・エンジンの燃焼及び、ジーゼル・ノックについて説明できるようになる。(空気過剰率、ジーゼル・ノックの発生原因と防止策)	
第2回	総論(ジーゼル・エンジンの排出ガス)	ジーゼル・エンジンの排出ガスについて説明できるようになる(黒煙、サルフェート、SOF)	
第3回	エンジン本体	キャビテーション及びトーショナル・ダンパについて説明できるようになる(シリンダ・ライナ、キャビテーション、 トーショナル・ダンパ)	
第4回	潤滑装置·冷却装置	油圧の制御及び、ファン・クラッチについて説明できるようになる(レギュレータ・バルブ、粘性式ファン・クラッチ)	
第5回	吸排気装置	ターボ・チャージャ及び、排気ガス後処理装置について、説明できるようになる。(可変容量式ターボ・チャージャ、DPF、尿素SCR)	
第6回	燃料装置(サプライ・ポンプ)	コモンレール式高圧燃料噴射装置について説明できるようになる。(吐出量制御式)	
第7回	燃料装置(サプライ・ポンプ)	コモンレール式高圧燃料噴射装置について説明できるようになる。(吸入調量式)	
第8回	燃料装置(コモンレール)	コモンレール式高圧燃料噴射装置について説明できるようになる。(コモンレールの構造と機能)	
第9回	燃料装置(インジェクタ)	コモンレール式高圧燃料噴射装置について説明できるようになる。(インジェクタの構造と作動)	
第10回	燃料装置(インジェクタ)	コモンレール式高圧燃料噴射装置について説明できるようになる。(噴射率制御、分割噴射制御)	
第11回	燃料装置(ユニット・インジェクタ)	ユニット・インジェクタ式高圧燃料噴射装置について説明できるようになる。(ユニット・インジェクタの構造、 作動)	
第12回	総合復習 国家試験受験対策	習熟度確認試験と解説及び、模擬試験の実施と解説	
第13回	総合復習 国家試験受験対策	習熟度確認試験と解説及び、模擬試験の実施と解説	
第14回	総合復習 国家試験受験対策	習熟度確認試験と解説及び、模擬試験の実施と解説	
第15回	期末試験	期末試験	

成績評価方法

	I			1				
	知識•理解	思考·判断	関心·意欲	態度	技能·表現	その他	評価割合	成績評価基準
定期試験	0	0					70	秀(S):100点~90点
小テスト	0	0	0				15	優(A):89点~80点
宿題授業外レポート							評価なし	良(B): 79点~70点
授業態度			0	0			15	可(D): 69点~60点
発表·作品							評価なし	不可(E):59点以下
演習							評価なし	
出席			0				欠格条件	
担当教員				実務経験紹介				

科目名	シャシ整備 Ⅱ	単位数	1	学科	国際自動車整備科				
授業形態	講義	対象学生	3年生	開設期	半期				
区分	必修	開設時期	後期	教員実務経験対象	有				
授業概要 (目的、目標とする資格・検定等)	二級自動車シャシ編の教科書に基づきシャシに関する構造及び機能につい	二級自動車シャン編の教科書に基づきシャンに関する構造及び機能についての知識を身につける。							
授業の一般目標	整備士として必要なシャシの構造、作動等の知識を体得する。	整備士として必要なシャシの構造、作動等の知識を体得する。							
受講条件	出席率90%以上								
事前学習について (テキスト・参考書等)	二級ガソリン・ジーゼル自動車 シャシ編 (日本自動車整備振興会連合会シャシ構造 I (全国自動車大学校・整備専門学校協会)、シャシ構造 II (
授業の到達目標									
□ 知識・理解の観点	1. 国家二級整備士合格レベルになるよう教科書に則した内容を知識を身 2. 就職後に必要な整備士としての知識や社会貢献するための責任、倫理								
□ 思考・判断の観点	1. 自動車整備について自分の意見を論理的に述べることができる。								
□ 関心・意欲の観点	1. 自動車整備に関する関心を広げ、問題意識を高めることができる。								
□態度の観点	1. 受講を通して自動車整備士として必要な人間性を身に付ける。								
□技能・表現の観点									
授業計画(全体)									

授業計画(授業単位)

主 題	授 集 内 容	備考
ステアリング装置	旋回性能(コーナリングフォースとスリップアングル)が説明できる。	
ステアリング装置	油圧式パワーステアリング…コントロールバルブ作動及びポンプの機構と作動が説明できる。	
ステアリング装置	電動パワーステアリング…各構成部品と車速感応制御作動が説明できる。	
ホイール及びタイヤ	ホイールの種類と機能、タイヤのたわみとバランスについて説明できる。	
ホイール及びタイヤ	タイヤの走行音、タイヤの異常磨耗について、種類や原因を説明できる。	
ホイール及びタイヤ	キャンバ、キャスタ、キングピン傾角について説明できる。	
ホイール及びタイヤ	トー、切れ角、サイドスリップ、軸スリップついて説明できる。	
ブレーキ装置	ABSの構成部品及び作動が説明できる。	
ブレーキ装置	トラクション・コントロールの構成部品及び作動が説明できる。	
ブレーキ装置	エア・油圧ブレーキの構成部品について説明できる。	
ブレーキ装置	ブレーキ・バルブ及び圧縮空気式制動倍力装置の作動が説明できる。	
ブレーキ装置	フル・エア式ブレーキについて説明できる。	
ブレーキ装置	エキゾースト・ブレーキ、エディカレント・リターダが説明できる。	
ブレーキ装置	トラック・フレーム、モノコック・ボデーの特徴について説明できる。	
期末試験	期末試験	
	ステアリング装置 ステアリング装置 ステアリング装置 ホイール及びタイヤ ホイール及びタイヤ ホイール及びタイヤ ブレーキ装置 ブレーキ装置 ブレーキ装置 ブレーキ装置 ブレーキ装置 ブレーキ装置 ブレーキ装置	ステアリング装置

成績評価方法

	知識•理解	思考·判断	関心・意欲	態度	技能·表現	その他	評価割合	成績評価基準
定期試験	0	0					70	秀(S):100点~90点
小テスト	0	0	0				15	優(A): 89点~80点
宿題授業外レポート							評価なし	良(B): 79点~70点
授業態度			0	0			15	可(D): 69点~60点
発表·作品							評価なし	不可(E):59点以下
演習							評価なし	
出席			0				欠格条件	
担当教員				実務経験紹介				

		т	T .	1						
科目名	電装整備Ⅱ	単位数	1	学科	国際自動車整備科					
授業形態	講義	対象学生	3年生	開設期	半期					
区分	必修	開設時期	後期	教員実務経験対象	有					
授業概要 (目的、目標とする資格・検定等)	三級整備士の知識である各電装装置の単体学習は1年次に終了している 1年次に学習した各装置の主に電子制御を中心に学習をする。	三級整備士の知識である各電装装置の単体学習は1年次に終了しているが、実車においては整備作業や制御が複雑となる。 1年次に学習した各装置の主に電子制御を中心に学習をする。								
授業の一般目標	エンジンやシャシにも電装品が使用されており、各分野に共通して電気の知識が必要となる。 1年次に学習した電気工学及び電装品単体の知識をもとに、実車において点検、整備及び故障探求が行えるようになる。									
受講条件	出席率90%以上									
事前学習について (テキスト・参考書等)	二級ガソリン自動車 エンジン編 (日本自動車整備振興会連合会)、二級 二級ガソリン・ジーゼル自動車 シャシ編 (日本自動車整備振興会連合会)	ジーゼル自動車 エ:)、電装品構造 (全	ンジン編 (日本自園 国自動車大学校・引	助車整備振興会連合会 整備専門学校協会)),					
授業の到達目標										
□ 知識・理解の観点	1. 電装分野において、二級自動車整備技能登録試験の合格者と同等の2. サービススタッフとしての心構えやマナーを身につけさせる。	知識を習得する。								
□ 思考・判断の観点	1. 自動車整備について自分の意見を論理的に述べることができる。									
□ 関心・意欲の観点	1. 自動車整備に関する関心を広げ、問題意識を高めることができる。									
□態度の観点	1. 受講を通して自動車整備士として必要な人間性を身に付ける。									
□技能・表現の観点										
授業計画(全体)	1									

授業計画(授業単位)

	主 題	授 業 内 容	備考
第1回	点火装置	マイクロコンピュータ式点火装置の作動を理解して点火時期制御の必要性を説明できるようになる	
第2回	点火装置	スパークプラグの自己清浄温度と過早点火温度を理解して熱価との関係性について説明できるようになる	
第3回	点火装置	着火性能と着火ミス防止のための工夫が説明できるようになる	
第4回	電子制御装置(点火制御装置)	イグナイタの役割について説明できるようになる (過電流保護回路について)	
第5回	電子制御装置(点火制御装置)	点火補正制御について説明できるようになる (始動後制御補正進角、最大最小進角特性)	
第6回	ハイブリッド車、電気自動車	電気自動車・ハイブリッド車の取り扱いの基礎知識を身につける (低圧電気取扱い特別教育講習前の補習)	
第7回	計器類	車速に関する計器の原理と作動を説明できるようになる	
第8回	計器類	燃料・油圧・温度に関する計器の原理と作動を説明できるようになる	
第9回	空気調和装置(エアコンディショナ)	エアコンディショナの種類と構造を理解して説明できるようになる	
第10回	空気調和装置(エアコンディショナ)	冷媒サイクルの名称、役割、状態を理解して説明できるようにする	
第11回	空気調和装置(エアコンディショナ)	自動制御の種類と役割について説明できるようになる	
第12回	電気装置の配線	CAN通信システムと配線図について説明できるようになる	
第13回	ハイブリッド車、電気自動車	低圧電気取扱い者特別教育講習に向けて、修了試験に合格できるようになる。	
第14回	安全装置	SRSエアバックとプリテンショナシートベルトの作動について理解して説明できるようになる	
第15回	期末試験	期末試験	

成績評価方法

	知識・理解	思考·判断	関心·意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合	成績評価基準
定期試験	0	0					70	秀(S):100点~90点
小テスト	0	0	0				15	優(A): 89点~80点
宿題授業外レポート							評価なし	良(B): 79点~70点
授業態度			0	0			15	可(D): 69点~60点
発表·作品							評価なし	不可(E):59点以下
演習							評価なし	
出席			0				欠格条件	
担当教員				実務経験紹介				

科目名	故障探究	単位数	1	学科	国際自動車整備科				
授業形態	講義	対象学生	3年生	開設期	半期				
区分	必修	開設時期	前期	教員実務経験対象	有				
授業概要 (目的、目標とする資格・検定等)	自動車の各装置の基本構造と機能を理解した上で、故障の原因を知り故障探究の進め方を学ぶ。								
授業の一般目標	業の一般目標 国家資格である、二級自動車整備士を取得できる知識を身に付ける。								
受講条件	出席率90%以上	出席率90%以上							
事前学習について (テキスト・参考書等)	自動車の故障と探求(全国自動車大学校・整備専門学校協会)								
授業の到達目標									
□ 知識・理解の観点	1. 各装置の故障原因を理解し故障探究が出来るようになる。								
□ 思考・判断の観点	1. 自動車整備について自分の意見を論理的に述べることができる。								
□ 関心・意欲の観点	1. 自動車整備に関する関心を広げ、問題意識を高めることができる。	1. 自動車整備に関する関心を広げ、問題意識を高めることができる。							
□ 態度の観点	1. 受講を通して自動車整備士として必要な人間性を身に付ける。								
□技能・表現の観点									
 授業計画(全体)									

各分野の終了時点で確認試験を行なう。確認試験にて70%未満の者は補習を行う。

授業計画(授業単位)

汉未们四(汉木-	年 区/		
<u> </u>	主 題	授 業 内 容	備考
第1回	車両の維持管理	故障を防ぐための法規制、故障の発生状況、顧客満足度について説明できるようになる。	
第2回	自動車整備に対するサービスの基本	整備対応手順の流れとその各項目について説明できるようになる。	
第3回	自動車保有台数と保守管理の必要性	日本国内の自動車保有台数から、その保守管理の重要性と保守管理を怠った場合について説明できるよう になる。(エンジン分野)	
第4回	言葉とプレゼンテーション	「話す」「聴く」について学習し、コンセンサスゲームを通して、お客様との会話技術を向上させる。	
第5回	センサの種類(信号形態別)	各種センサの信号形態を理解し、故障探究時に判断できるようになる。(論理信号センサ)	
第6回	センサの種類(信号形態別)	各種センサの信号形態を理解し、故障探究時に判断できるようになる。(リニア信号センサ)	
第7回	センサの種類(信号形態別)	各種センサの信号形態を理解し、故障探究時に判断できるようになる。(周波数信号センサ)	
第8回	回路故障①	電圧の基本を理解し、断線故障・短絡故障の判断ができるようになる。	
第9回	回路故障②	電圧の基本を理解し、断線故障・短絡故障の判断ができるようになる。	
第10回	回路故障③	回路故障時における、外部診断器の活用方法を理解し実習につなげる。	
第11回	エンジンの故障探究手順	エンジンの故障探究についてチャートを理解し、実習につなげる。(ガソリンエンジン)	
第12回	エンジンの故障探究手順	エンジンの故障探究についてチャートを理解し、実習につなげる。(ジーゼルエンジン)	
第13回	シャシの故障探究手順	シャシの故障探究についてチャートを理解し、実習につなげる。	
第14回	電装の故障探究手順	電装品の故障探究についてチャートを理解し、実習につなげる。	
第15回	期末試験	期末試験	
第19回		7771小日4月大	

成績評価方法

	知識•理解	思考·判断	関心・意欲	態度	技能·表現	その他	評価割合	成績評価基準
定期試験	0	0					70	秀(S):100点~90点
小テスト	0	0	0				15	優(A): 89点~80点
宿題授業外レポート							評価なし	良(B): 79点~70点
授業態度			0	0			15	可(D): 69点~60点
発表•作品							評価なし	不可(E):59点以下
演習							評価なし	
出席			0				欠格条件	
担当教員				実務経験紹介				

科目名	検査機器	単位数	1	学科	国際自動車整備科				
授業形態	講義	対象学生	3年生	開設期	半期				
区分	必修	開設時期	後期	教員実務経験対象	有				
授業概要 (目的、目標とする資格・検定等)	自動車の整備工具及び検査機器について、その構造、機能、原理、特徴、済	自動車の整備工具及び検査機器について、その構造、機能、原理、特徴、測定方法、取り扱いの注意事項等を学習する。							
授業の一般目標	自動車の検査に使用するための各種機器の取り扱いや車両の良否の判定	自動車の検査に使用するための各種機器の取り扱いや車両の良否の判定方法を習熟することで、安全・安心を提供できることを目指す。							
受講条件	出席率90%以上								
事前学習について (テキスト・参考書等)	自動車整備工具・機器(全国自動車大学校・整備専門学校協会)、法令教	材 令和6年度版	(日本自動車整備抵	長興会連合会)					
授業の到達目標									
□ 知識・理解の観点	1. 機器の構造・作動や測定方法、正しい取り扱い方法、結果の判定方法に 2. 判定基準値等に関して、国家試験合格レベルの知識の習得を目指す。	こついて習熟すること	:.						
□ 思考・判断の観点	1. 自動車整備について自分の意見を論理的に述べることができる。								
□ 関心・意欲の観点	1. 自動車整備に関する関心を広げ、問題意識を高めることができる。								
□態度の観点	1. 受講を通して自動車整備士として必要な人間性を身に付ける。								
□技能・表現の観点									
授業計画(全体)									

各分野の終了時点で確認試験を行なう。確認試験にて70%未満の者は補習を行う。

授業計画(授業単位)

	主 題	授 業 内 容	備考
第1回	自動車検査用機器	8-1 概要 1)検査用機器の技術基準適合証明	
第2回	自動車検査用機器	8-1 概要 2)検査用機器取り扱い	
第3回	自動車検査用機器	8-2 サイド・スリップ・テスタについて	
第4回	自動車検査用機器	8-3 ブレーキ・テスタについて	
第5回	自動車検査用機器	8-4 スピード・メータ・テスタについて	
第6回	自動車検査用機器	8-5 スーパ・コンビネーション・テスタについて	
第7回	理解度チェックI	8-1~5 の範囲でテストを行い、問題の60%以上を正解する。	
第8回	自動車検査用機器	8-6 ヘッドライト・テスタについて	
第9回	自動車検査用機器	8-7 排気ガス測定器について	
第10回	自動車検査用機器	8-8 黒煙測定器ついて	
第11回	自動車検査用機器	8-9 オパシメータについて	
第12回	自動車検査用機	8-10 騒音計について	
第13回	国家試験対策	過去問題を理解して答えることが出来るようになる。	
第14回	国家試験対策	過去問題を理解して答えることが出来るようになる。	·
第15回	期末試験	期末試験	·

成績評価方法

	知識・理解	思考·判断	関心・意欲	態度	技能·表現	その他	評価割合	成績評価基準
定期試験	0	0					70	秀(S):100点~90点
小テスト	0	0	0				15	優(A): 89点~80点
宿題授業外レポート							評価なし	良(B): 79点~70点
授業態度			0	0			15	可(D): 69点~60点
発表・作品							評価なし	不可(E):59点以下
演習							評価なし	
出席			0				欠格条件	
担当教員				実務経験紹介				

科目名	検査法	単位数	1	学科	国際自動車整備科			
授業形態	講義	対象学生	3年生	開設期	半期			
区分	必修	開設時期	前期	教員実務経験対象	有			
授業概要 (目的、目標とする資格・検定等)	道路運送車両(保安基準)の知識を身に着ける。							
授業の一般目標	道路運送車両(保安基準)を国家試験の過去問題ができるようになる。							
受講条件	出席率90%以上							
事前学習について (テキスト・参考書等)	法令教材 令和6年度版 (日本自動車整備振興会連合会)							
授業の到達目標								
□知識・理解の観点	1. 道路運送車両法に基づく保安上の技術基準いついて、「道路運送車 として必要な知識を学習し、数値や基準を覚える。 また、材料の性質	両の保安基準」及び、「 賃を知ることで、適切な	「保安基準の細目を 整備・修理が出来	を定める告示」に基ずき、 るようになる。	二級整備士			
□ 思考・判断の観点	1. 自動車整備について自分の意見を論理的に述べることができる。							
□ 関心・意欲の観点	1. 自動車整備に関する関心を広げ、問題意識を高めることができる。							
□態度の観点	1. 受講を通して自動車整備士として必要な人間性を身に付ける。							
□ 技能・表現の観点								
授業計画(全体)								

各分野の終了時点で確認試験を行なう。確認試験にて70%未満の者は補習を行う。

授業計画(授業単位)

	主 粗	授業内容	備考
第1回	自動車保安基準	保安基準の概要について理解して説明出来るようになる。	
第2回	自動車保安基準	自動車の長さ、幅、高さ、最低地上高、車両総重量、軸重について数値や基準を覚え説明出来るようになる。	
第3回	自動車保安基準	自動車の安定性、最小回転半径、走行装置、操縦装置、制動装置について数値や基準を覚え説明出来るようになる。	
第4回	自動車保安基準	自動車の燃料装置、車枠及び車台、巻き込み防止装置、乗車装置、乗降口について数値や基準を覚え説明 出来るようになる。	
第5回	自動車保安基準	自動車の非常ロ、窓ガラス、騒音装置、排出ガス、前照灯、前部霧灯について数値や基準を覚え説明出来るようになる。	
第6回	自動車保安基準	自動車の車幅灯、側方灯及び側方反射器、番号灯、尾灯、後部反射器、制動灯について数値や基準を覚え 説明出来るようになる。	
第7回	自動車保安基準	自動車の後退灯、方向指示器、非常点滅表示灯、その他の灯火について数値や基準を覚え説明出来るよう になる。	
第8回	自動車保安基準	自動車の警音器、非常信号用具、後写鏡、窓ふき器、速度計、消火器、運行記録計、乗車定員及び最大積載量について数値や基準を覚え説明出来るようになる。	
第9回	自動車保安基準	自動車保安基準の復習で練習問題が60%以上取ることが出来る。	
第10回	国家試験対策	自動車保安基準の復習で練習問題が60%以上取ることが出来る。	
第11回	国家試験対策	自動車保安基準の復習で練習問題が60%以上取ることが出来る。	
第12回	国家試験対策	自動車保安基準の復習で練習問題が60%以上取ることが出来る。	
第13回	国家試験対策	自動車保安基準の復習で練習問題が60%以上取ることが出来る。	
第14回	国家試験対策	自動車保安基準の復習で練習問題が60%以上取ることが出来る。	
第15回	期末試験	期末試験	

成績評価方法

	知識・理解	思考·判断	関心・意欲	態度	技能·表現	その他	評価割合	成績評価基準
定期試験	0	0					70	秀(S):100点~90点
小テスト	0	0	0				15	優(A): 89点~80点
宿題授業外レポート							評価なし	良(B): 79点~70点
授業態度			0	0			15	可(D): 69点~60点
発表·作品							評価なし	不可(E):59点以下
演習							評価なし	
出席			0				欠格条件	
担当教員				実務経験紹介				

科目名	法規	単位数	1	学科	国際自動車整備科				
授業形態	講義	対象学生	3年生	開設期	半期				
区分	必修	開設時期	前期	教員実務経験対象	有				
授業概要 (目的、目標とする資格・検定等)	道路運送車両法の学習								
授業の一般目標	道路運送車両法を理解すること								
受講条件	出席率90%以上	出席率90%以上							
事前学習について (テキスト・参考書等)	法令教材 令和6年度版 (日本自動車整備振興会連合会)								
授業の到達目標									
□ 知識・理解の観点	1. 道路運送車両法の条文を理解する。 2. 条文を理解する方法として、二級整備士の国家試験の過去問題等を反	復学習する。							
□ 思考・判断の観点	1. 自動車整備について自分の意見を論理的に述べることができる。								
□ 関心・意欲の観点	1. 自動車整備に関する関心を広げ、問題意識を高めることができる。								
□態度の観点	1. 受講を通して自動車整備士として必要な人間性を身に付ける。								
□ 技能・表現の観点									
授業計画(全体)	·								

授業計画(授業単位)

技术計画(技术	丰 位/		
•	主 題	授 業 内 容	備考
第1回	道路運送車両法	- 整備士技能検定制度について 第55条 - 自動車を取り巻く法規制の概要	
第2回	道路運送車両法	・道路運送車両法の意義、目的、定義、自動車の種別	
第3回	道路運送車両法	- 道路運送車両法の概要と目的 復習 練習問題 - 自動車の登録の概要と種類	
第4回	道路運送車両法	- 自動車登録番号標の表示の義務 - 車台番号の打刻、臨時運行について	
第5回	道路運送車両法	・自動車の登録のまとめ 練習問題 ・保安基準の概要と点検及び整備について	
第6回	道路運送車両法	・点検及び整備について ・自動車点検基準	
第7回	道路運送車両法	・整備命令 ・点検及び整備のまとめ 練習問題	
第8回	道路運送車両法	- 検査の概要 - 新規検査及び継続検査	
第9回	道路運送車両法	- 臨時検査 - 構造等変更検査及び予備検査	
第10回	道路運送車両法	・分解整備事業の種類、認証について	
第11回	道路運送車両法	・分解整備事業の義務と遵守事項について	
第12回	道路運送車両法	・指定自動車整備事業、保安基準適合証について	
第13回	道路運送車両法	・ 指定整備記録簿、自動車整備振興会について	·
第14回	道路運送車両法	・不正使用、不正改造について	
第15回	期末試験	- 期末試験	·

成績評価方法

	I			1				
	知識•理解	思考·判断	関心·意欲	態度	技能·表現	その他	評価割合	成績評価基準
定期試験	0	0					70	秀(S):100点~90点
小テスト	0	0	0				15	優(A):89点~80点
宿題授業外レポート							評価なし	良(B): 79点~70点
授業態度			0	0			15	可(D): 69点~60点
発表·作品							評価なし	不可(E):59点以下
演習							評価なし	
出席			0				欠格条件	
担当教員				実務経験紹介				

科目名			エンジン	ノ実習Ⅲ		単位数	4	学科	国際自動車整備科	
授業形態			実	習		対象学生	3年生	開設期	通期	
区分			必	冷修		開設時期	通期	教員実務経験対	村象 有	
授業概要 (目的、目標とする資格	各•検定等)	1・2年時に学んだ 点検及び調整方法		及び、ジーゼル・エン	ッジンの本体や各装	置の基本的な整備	技術を理解した上で	ご、より高度な整値	帯技術や、エンジンの	
授業の一般目標	E C	国家資格である、	二級ガソリン自動車	重整備士及び、二級:	ジーゼル自動車整	備士としての整備技	術を身に付ける。			
受講条件		出席率90%以上								
事前学習につい		三級自動車ガソリ	ン・エンジン (日本	日本自動車整備振興 に自動車整備振興会 重大学校・整備専門の	連合会)、三級自動	カ車ジーゼル・エンジ	ジン (日本自動車型	医備振興会連合会	€)、	
□知識・理解の	観点			し、内燃機関の性能 が出来るようになる。		・性能曲線図が作成	た出来るようになる 。			
□ 思考・判断の	観点			を論理的に述べるこ						
□ 関心・意欲の	観点	1. 自動車整備に	関する関心を広げ、	問題意識を高める	ことができる。					
□態度の観点		1. 受講を通して自	動車整備士として	必要な人間性を身に	こ付ける。					
□ 技能・表現の	観点	1. 自動車整備士	として必要な整備技	技術と説明力を身に						
授業計画(全体))									
各分野の終了時	f点で確認試験を	行なう。								
授業計画(授業)	単位)									
		主 題				授業内容			備考	
第1回	シリンダ・ヘッドでルの点検、調整	の亀裂点検及び、イン	ンジェクション・ノズ	うになる。スロットル・ ンジェクション・ノズル	2エンジンのシリンダ・ヘッドを用い、染色浸透探傷法によるシリンダ・ヘッドの亀裂点検が出来るよ ロットル・ノズルとホール・ノズルの違いが説明出来るようになるとともに、ノズル・テスタを用いたイン・ノズルの点検及び、調整が出来るようになる。					
					-イル・クリアランスの	シンが				
				始動できるようになる						
第2回		ンスの点検及び、4 ⁻ Dバルブタイミングと								
				省熟度確認試験と解	説及び、模擬試験の	実施と解説				
第3回	総合復習及び、	国家試験受験対策								
				習熟度確認試験と解	説及び、模擬試験の	実施と解説				
第4回	総合復習及び、	国家試験受験対策								
単位認定 総合原	·									
		ポート点15%、態度	点15%							
		知識•理解	思考·判断	関心·意欲	態度	技能·表現	その他	評価割合	成績評価基準	
定期試験		0	0		0	0		70	秀(S):100点~90点	
小テスト 宿題授業外レポ	·	<u> </u>		0			0	評価なし	優(A): 89点~80点 良(B): 79点~70点	
イロス イロス イロス イロス イロス イロス イロス イロス イロス イロス	· r	0		0	©		0	15 15	及(B): /9点~/0点 可(D): 69点~60点	
発表·作品					•	0		定期試験に含む		
演習						-		評価なし		
出席				0				欠格条件		
担当教員					実務経験紹介					

科目名	シャシ実習Ⅲ	単位数	4	学科	国際自動車整備科		
授業形態	実習	対象学生	3年生	開設期	通期		
区分	必修	開設時期	通期	教員実務経験対象	有		
受業概要 (目的、目標とする資格・検定等)	1・2年次に体得した基礎知識を基にその応用実習で、整備地調 不具合現象の確認ができ、的確な故障診断ができる知識を習得						
授業の一般目標	整備士として必要なシャシの知識を身につける。 故障診断作業の技術を習得する。						
受講条件	出席率90%以上						
事前学習について (テキスト・参考書等)	二級ガソリン・ジーゼル自動車 シャシ編 (日本自動車整備振り シャン構造 I (全国自動車大学校・整備専門学校協会)、シャン						
授業の到達目標							
□ 知識・理解の観点	1. 国家二級整備士試験合格レベルになるよう教科書等に則した 2. 就職後の仕事に差し支えない整備士としての基礎知識を体系						
□ 思考・判断の観点	1. 自動車整備について自分の意見を論理的に述べることができ	きる。					
	1. 自動車整備に関する関心を広げ、問題意識を高めることがで	きる。					
□ 関心・意欲の観点	1. 受講を通して自動車整備士として必要な人間性を身に付ける。						
□ 関心・意欲の観点 □ 態度の観点	1. 受講を通して自動車整備士として必要な人間性を身に付ける						
	 受講を通して自動車整備士として必要な人間性を身に付ける 自動車整備士として必要な整備技術と説明力を身に付ける。 	•					

授業計画(授業単位)

回	主題	授 業 内 容	備考
第1回	ホイール・アライメント	ホイール・アライメントの各要素を理解する。 CCKゲージ、ターニング・ラジアス・ゲージを用いた測定ができる。	
第2回	ブレーキ装置	エア・油圧式、フルエア式ブレーキの違いを説明できる。 ブレーキ・バルブ、リレー・バルブ、制動倍力装置の構造、作動を説明できる。	
第3回	総合復習及び、国家試験受験対策	習熟度確認試験と解説及び、模擬試験の実施と解説	
第4回	総合復習及び、国家試験受験対策	習熟度確認試験と解説及び、模擬試験の実施と解説	

成績評価方法

単位認定 総合成績60点 出席率90%以上 本試験70%、レポート点15%、態度点15%

	知識・理解	思考·判断	関心·意欲	態度	技能·表現	その他	評価割合	成績評価基準
定期試験	0	0		0	0		70	秀(S):100点~90点
小テスト							評価なし	優(A): 89点~80点
宿題授業外レポート	0		0			0	15	良(B): 79点~70点
授業態度			0	0			15	可(D): 69点~60点
発表·作品					0		定期試験に含む	不可(E):59点以下
演習							評価なし	
出席			0				欠格条件	
担当教員				実務経験紹介	· · · · · · · · · · · · · · · · · · ·			

科目名	電装実習Ⅲ	単位数	4	学科	国際自動車整備科
授業形態	実習	対象学生	3年生	開設期	通期
区分	必修	開設時期	通期	教員実務経験対象	有
授業概要 (目的、目標とする資格・検定等)	1·2年次に習得した基礎知識を土台に応用力を身に付け整備技術 電気回路の故障診断に必要な外部診断機、テスタ類の取り扱いが				
授業の一般目標	整備士として必要な電気の基礎を身に付け故障診断ができる技術	を習得する。			
受講条件	出席率90%以上				
事前学習について (テキスト・参考書等)	基礎自動車工学 (日本自動車整備振興会連合会)、二級ガソリンニ級ジーゼル自動車 エンジン編 (日本自動車整備振興会連合会)				
授業の到達目標	L				
□ 知識・理解の観点	1. 配線図の読み取り方法				
□ 思考・判断の観点	1. 自動車整備について自分の意見を論理的に述べることができる	0			
□ 関心・意欲の観点	1. 自動車整備に関する関心を広げ、問題意識を高めることができ	5.			
□ 態度の観点	1. 受講を通して自動車整備士として必要な人間性を身に付ける。				
□ 技能・表現の観点	1. 自動車整備士として必要な整備技術と説明力を身に付ける。				
授業計画(全体)					
各分野の終了時点で確認試	験を行なう。				
授業計画(授業単位)					
	A =		_		

0	主題	授業內容	備考
第1回	点火装置 空調装置	1年次の復習、点火時期の確認 車上点火装置の取り外し、各部点検、イグナイタの点検	
		実車を使用してエアコンガスの入れ替え、各部部品名、役割の確認、コンプレッサの分解組付け	
		実車両の不具合故障診断、点検 配線図の読み取り方法 車両取り扱いの方法	
第2回	安全装置 故障探究		
第3回	総合復習及び、国家試験受験対策	習熟度確認試験と解説及び、模擬試験の実施と解説	
辿っ面	総合復自及び、国家政際交 號对束		
***		習熟度確認試験と解説及び、模擬試験の実施と解説	
第4回	総合復習及び、国家試験受験対策		

成績評価方法

単位認定 総合成績60点 出席率90%以上 本試験70%、レポート点15%、態度点15%

	知識•理解	思考•判断	関心·意欲	態度	技能·表現	その他	評価割合	成績評価基準
定期試験	0	0		0	0		70	秀(S):100点~90点
小テスト							評価なし	優(A): 89点~80点
宿題授業外レポート	0		0			0	15	良(B): 79点~70点
授業態度			0	0			15	可(D): 69点~60点
発表·作品					0		定期試験に含む	不可(E):59点以下
演習							評価なし	
出席			0				欠格条件	
担当教員				実務経験紹介				

	総合実習			実習Ⅲ		単位数	2	学科	国際自動車整備科
受業形態			3	€習		対象学生	3年生	開設期	半期
区分			ú	必修		開設時期	後期	教員実務経験対	対象 有
受業概要 (目的、目標とする資	《格·検定等)			知識と技術を習得す 自動ブレーキ技術に	「る。 使用されている電装	部品(センサなど)	こ対しての調整ス	ち法を学習し実施す	-ā.
授業の一般目標	標			し、正確に作業が出 具合箇所(故障部位	来る。 立)に対しては交換作	業が出来る。			
受講条件		出席率90%以上							
事前学習につし (テキスト・参考		自動車定期点検整	整備の手引き (日	本自動車整備振興的	会連合会)、自動車の	D故障と探求 (全国]自動車大学校・	整備専門学校協会	:)
授業の到達目	標								
□ 知識·理解 <i>0</i>	の観点			項目を理解し、作業 カメラやセンサの調査	や各部品の良否判 整作業ができる。	断が出来るようにな	り、系統的に故障	章探究ができる。	
□ 思考·判断 <i>0</i>	の観点	1. 自動車整備に	ついて自分の意見	を論理的に述べるこ	とができる。				
□ 関心·意欲@	の観点	1. 自動車整備に	関する関心を広げ	、問題意識を高める	ことができる。				
□ 態度の観点	i	1. 受講を通して自	動車整備士として	「必要な人間性を身(に付ける。				
□ 技能·表現の	の観点	1. 自動車整備士	として必要な整備	支術と説明力を身に	 付ける。				
授業計画(全体	\$)								
<u> </u>		主題				授業内容			備考
第1回	定期点検整備付車載カメラの調(エーミング作業	作業整		特定整備の概要 不具合箇所(故障	月点検)の手順と作 説明、各メーカー耳 章部位)に対して、お されている、車載カ	業を理解する。 画両にて点検作業を 対障診断を実施する。	ა		備者
第1回	車載カメラの調	作業整		特定整備の概要 不具合箇所(故障 最新技術に使用	説明、各メーカー耳 章部位)に対して、お	業を理解する。 直両にて点検作業 攻障診断を実施す メラやセンサの調	ა		備为
	車載カメラの調(エーミング作う	作業整		特定整備の概要 不具合箇所(故障 最新技術に使用	説明、各メーカー耳章部位)に対して、お されている、車載カ	業を理解する。 直両にて点検作業 攻障診断を実施す メラやセンサの調	ა		備 考
第1回	車載カメラの調(エーミング作業	を 整 を について)		特定整備の概要 不具合箇所(故障 最新技術に使用	説明、各メーカー耳章部位)に対して、お されている、車載カ	業を理解する。 直両にて点検作業 攻障診断を実施す メラやセンサの調	ა		備为
第1回 第2回 成績評価方法 単位認定 総合	車載カメラの調 (エーミング作業 総合復習及び、	を 整 を について)	点15%	特定整備の概要 不具合箇所(故障 最新技術に使用	説明、各メーカー耳章部位)に対して、お されている、車載カ	業を理解する。 直両にて点検作業 攻障診断を実施す メラやセンサの調	ა		備为
第1回 第2回 成績評価方法 単位認定 総合 出席率90%以上	車載カメラの調 (エーミング作業 総合復習及び、	作業 整 関 で で で で で で で で で で で で で で で で で で で	点15% 思考·判断	特定整備の概要 不具合箇所(故障 最新技術に使用	説明、各メーカー耳章部位)に対して、お されている、車載カ	業を理解する。 直両にて点検作業 攻障診断を実施す メラやセンサの調	ა	評価割合	成績評価基準
第1回 第2回 成績評価方法 単位認定 総合 出席率90%以上 定期試験	車載カメラの調 (エーミング作業 総合復習及び、	作業整 整 (について) 国家試験受験対策 ポート点15%、態度		特定整備の概要 不具合箇所(故障 最新技術に使用 習熟度確認試験と解	説明、各メーカー事	業を理解する。 画面にて点検作業 攻障診断を実施す メラやセンサの調 実施と解説	る。	70	成績評価基準 秀(S):100点~90点
第1回 第2回 成績評価方法 単位認定 総合 出席率90%以上 定期試験 小テスト	車載カメラの調 (エーミング作う 総合復習及び、 総合復習及び、 合成績60点 上 本試験70%、レ	作業 整 を(について) 国家試験受験対策 ポート点15%、態度 知識・理解 〇	思考·判断	特定整備の概要に不具合箇所(故障服务) 最新技術に使用でいます。 関連の できない できない できない できない はいまい できない はいい できない はいい きんしん はいい きんしん はいい きんしん はいい きんしん はいい きんしん はいい はい	説明、各メーカー事 章都位)に対して、も されている、車載力 容説及び、模擬試験の3 態度	業を理解する。 直面にて点検作業 攻障診断を実施す メラやセンサの調 実施と解説	る。整作業。	70 評価なし	成績評価基準 秀(S):100点~90点 優(A):89点~80点
第1回 第2回 成績評価方法 単位認定 総合 出席率90%以上 定期試験 小テスト 宿題授業外レ7	車載カメラの調 (エーミング作う 総合復習及び、 総合復習及び、 合成績60点 上 本試験70%、レ	作業 整 (について) 国家試験受験対策 ポート点15%、態度 知識・理解	思考·判断	特定整備の概要に 不具合箇所(故間 最新技術に使用 習熟度確認試験と解 関心・意欲	説明、各メーカー事章部位)に対して、古されている、車載力されている、車載力を設及び、模擬試験の3	業を理解する。 直面にて点検作業 攻障診断を実施す メラやセンサの調 実施と解説	る。	70 評価なし 15	成績評価基準 秀(S):100点~90点 優(A):89点~80点 良(B):79点~70点
第1回 第2回 就績評価方法 単位認定 総合 出席率90%以上 定期試験 小テスト 宿題授業外レ7 授業態度	車載カメラの調 (エーミング作う 総合復習及び、 総合復習及び、 合成績60点 上 本試験70%、レ	作業 整 を(について) 国家試験受験対策 ポート点15%、態度 知識・理解 〇	思考·判断	特定整備の概要に不具合箇所(故障服务) 最新技術に使用でいます。 関連の できない できない できない できない はいまい できない はいい できない はいい きんしん はいい きんしん はいい きんしん はいい きんしん はいい きんしん はいい はい	説明、各メーカー事 章都位)に対して、も されている、車載力 容説及び、模擬試験の3 態度	業を理解する。 ■両にて点検作業? 枚障診断を実施す ルメラやセンサの調 実施と解説 技能・表現 ⑥	る。整作業。	70 評価なし 15 15	成績評価基準 秀(S):100点~90点 優(A):89点~80点 良(B):79点~70点 可(D):69点~60点
第1回 第2回 成績評価方法 単位認定の%以」 定期試験 小テスト 宿題授業外レ7 授業態度 発表・作品	車載カメラの調 (エーミング作う 総合復習及び、 総合復習及び、 合成績60点 上 本試験70%、レ	作業 整 を(について) 国家試験受験対策 ポート点15%、態度 知識・理解 〇	思考·判断	特定整備の概要に 不具合箇所(故間 最新技術に使用 習熟度確認試験と解 関心・意欲	説明、各メーカー事章部位)に対して、古されている、車載力されている、車載力を設及び、模擬試験の3	業を理解する。 直面にて点検作業 攻障診断を実施す メラやセンサの調 実施と解説	る。整作業。	70 評価なし 15 15 定期試験に含む	成績評価基準 秀(S):100点~90点 優(A):89点~80点 良(B):79点~70点 可(D):69点~60点
第1回 第2回 成績評価方法 単位認定 総合 出席率90%以上 定期試験 小テスト 宿題授業外レ7 授業態度	車載カメラの調 (エーミング作う 総合復習及び、 総合復習及び、 合成績60点 上 本試験70%、レ	作業 整 を(について) 国家試験受験対策 ポート点15%、態度 知識・理解 〇	思考·判断	特定整備の概要に 不具合箇所(故間 最新技術に使用 習熟度確認試験と解 関心・意欲	説明、各メーカー事章部位)に対して、古されている、車載力されている、車載力を設及び、模擬試験の3	業を理解する。 ■両にて点検作業? 枚障診断を実施す ルメラやセンサの調 実施と解説 技能・表現 ⑥	る。整作業。	70 評価なし 15 15	成績評価基準 秀(S):100点~90点 優(A):89点~80点 良(B):79点~70点 可(D):69点~60点

科目名			検査	作業実習		単位数	2	学科	国際自動車整備科
受業形態			5	実習		対象学生	3年生	開設期	半期
≤分			į	 必修		開設時期	前期	教員実務経験対	対象 有
受業概要 目的、目標とする資	格·検定等)	自動車の車検、検	査作業の知識と打	支術を習得する。					<u>'</u>
授業の一般目標	票			け記録簿の記入が出 を機器を使用して測定		得する。			
受講条件		出席率90%以上							
事前学習について (テキスト・参考書等) 自動車定期点検整備の手引き (日本自動車整備振興会連合会)、法令教材 令和6年度版 (日本自 ニ級ガソリン・ジーゼル自動車 シャン編 (日本自動車整備振興会連合会)、三級自動車シャン (日本								振興会連合会)、 &備振興会連合会)	
授業の到達目権	票								
□ 知識·理解 <i>0</i>)観点	2. 車検整備作業(の箇所と流れが分 D測定、点検、調整	しや、検査の実務が出 かり基準を基に正確 整が検査機器を使用し もようになる。	な整備作業が出来				
□ 思考·判断 <i>0</i>	D観点	1. 自動車整備に	ついて自分の意見	を論理的に述べるこ	とができる。				
□ 関心·意欲の	D観点	1. 自動車整備に	関する関心を広げ	、問題意識を高めるこ	ことができる。				
□ 態度の観点		1. 受講を通して自	動車整備士として	て必要な人間性を身に	付ける。				
□ 技能·表現の	D観点	1. 自動車整備士	として必要な整備	技術と説明力を身に作					
授業計画(全体	;)								
各分野の終了	侍点で確認試験を	行なう。							
授業計画(授業	単位)								
授業計画(授業 回	単位)	主題				授業内容			備考
	自動車の車検			検査作業が記録簿なる。	に基づいて作業が		削断や各部の点粒	食、調整が出来るよ	
0		作業			さまざまな検査機	出来、部品の良否等	≧、調整の技術を)ic
第1回	自動車の車検	作業		なる。 検査ラインを使用し	さまざまな検査機	出来、部品の良否等	≧、調整の技術を)ic
第1回 第2回 成績評価方法 単位認定 総合	自動車の車検・自動車の検査・ 自動車の検査・ 成績60点	作業	点15%	なる。 検査ラインを使用し	さまざまな検査機	出来、部品の良否等	≧、調整の技術を)ic
第1回 第2回 成績評価方法 単位認定 総合	自動車の車検・自動車の検査・ 自動車の検査・ 成績60点	作業	点15% 思考·判断	なる。 検査ラインを使用し	さまざまな検査機	出来、部品の良否等	≧、調整の技術を)ic
第1回 第2回 成績評価方法 単位認定総合 出席率90%以上	自動車の車検・自動車の検査・ 自動車の検査・ 成績60点	作業作業		なる。 検査ラインを使用し 員の業務を理解しく	さまざまな検査機 保安基準適合証の	出来、部品の良否等	€、調整の技術をなる。	習得して、自動車検	· · · · · · · · · · · · · · · · · ·
第1回 第2回 成綾評価方法 単位認率90%以上 定期試験 小テスト	自動車の車検・自動車の検査・ 自動車の検査・ 成績60点 こ本試験70%、L	作業 作業 小ポート点15%、態度 知識・理解	思考·判断	なる。 検査ラインを使用し 員の業務を理解しく	さまざまな検査機 保安基準適合証の 態度	出来、部品の良否等	€、調整の技術をなる。	習得して、自動車検	でである。
第1回 第2回 成績評価方法 単位認定 総合 出席率90%以上 定期試験 小テスト 宿題授業外レオ	自動車の車検・自動車の検査・ 自動車の検査・ 成績60点 こ本試験70%、L	作業 作業 小ポート点15%、態度 知識・理解	思考·判断	なる。 検査ラインを使用し 員の業務を理解した 関心・意欲	さまざまな検査機 保安基準適合証の 態度	出来、部品の良否等	€、調整の技術をなる。	習得して、自動車検 評価割合 70	成績評価基準 秀(S):100点~90点 優(A):89点~80点 良(B):79点~70点
東1回 第2回 泉全回 成績評価方法 単位認率90%以上 定期試験 小テスト 宿題授業外レオ 授業態度	自動車の車検・自動車の検査・ 自動車の検査・ 成績60点 こ本試験70%、L	作業 作業 /ポート点15%、態度 知識・理解 〇	思考·判断	なる。 検査ラインを使用し 員の業務を理解しも 関心・意欲	さまざまな検査機 保安基準適合証の 態度	出来、部品の良否等の使用方法と測定に対しませんが出来るようにない。	≥、調整の技術を なる。 その他	習得して、自動車検 評価割合 70 評価なし 15	成績評価基準 秀(S):100点~90点 優(A):89点~80点 良(B):79点~70点 可(D):69点~60点
東1回 第1回 第2回 成績評価方法 単位認定の%以上 出席率90%以上 定期試験 小子スト 宿題授業外レオ 授業態度 発表・作品	自動車の車検・自動車の検査・ 自動車の検査・ 成績60点 こ本試験70%、L	作業 作業 /ポート点15%、態度 知識・理解 〇	思考·判断	なる。 検査ラインを使用し 員の業務を理解した 関心・意欲	さまざまな検査機 保安基準適合証の 態度	出来、部品の良否等	≥、調整の技術を なる。 その他	習得して、自動車検 評価割合 70 評価なし 15 15 定期試験に含む	成績評価基準 秀(S):100点~90点 優(A):89点~80点 良(B):79点~70点
東1回 第1回 第2回 成績評価方法 単位認率90%以上 定期試験 小石題授業外レオ 授業表・作品 演習	自動車の車検・自動車の検査・ 自動車の検査・ 成績60点 こ本試験70%、L	作業 作業 /ポート点15%、態度 知識・理解 〇	思考·判断	検査ラインを使用し 員の業務を理解した 関心・意欲	さまざまな検査機 保安基準適合証の 態度	出来、部品の良否等の使用方法と測定に対しませんが出来るようにない。	≥、調整の技術を なる。 その他	習得して、自動車検 評価割合 70 評価なし 15 15 定期試験に含む 評価なし	成績評価基準 秀(S):100点~90点 優(A):89点~80点 良(B):79点~70点 可(D):69点~60点
第1回 第2回 成績評価方法 単位認定 総合	自動車の車検・自動車の検査・ 自動車の検査・ 成績60点 こ本試験70%、L	作業 作業 /ポート点15%、態度 知識・理解 〇	思考·判断	なる。 検査ラインを使用し 員の業務を理解した 関心・意欲	さまざまな検査機 保安基準適合証の 態度	出来、部品の良否等の使用方法と測定に対しませんが出来るようにない。	≥、調整の技術を なる。 その他	習得して、自動車検 評価割合 70 評価なし 15 15 定期試験に含む	成績評価基準 秀(S):100点~90点 優(A):89点~80点 良(B):79点~70点 可(D):69点~60点

科目名	日本語			能力1級		単位数	1	学科	国際自動車整備科		
授業形態				義		対象学生	3年生	開設期	通期		
区分			 نک	修		開設時期	通期	教員実務経験対	象		
授業概要(目的、目標とする資格	・検定等)	JLPT(日本語能力		できる力を身につける	ర ం						
授業の一般目標		JLPT(日本語能力]試験)N1相当の	売解力を身につける	00						
受講条件		出席率90%以上									
事前学習につい (テキスト・参考)		新完全マスター読	解 日本語能力試	験N1 (スリーエー)	ネットワーク)						
授業の到達目標											
□知識・理解の	観点	1. N1レベルの読	解力がある。								
□ 思考・判断の	観点	1. 自動車整備に	ついて自分の意見	を論理的に述べるこ	とができる。						
□ 関心・意欲の	観点	1. 自動車整備に	員する関心を広げ、	問題意識を高める	ことができる。						
□態度の観点		1. 受講を通して自	動車整備士として	必要な人間性を身に	こ付ける。						
□ 技能・表現の	観点										
授業計画(全体)											
各分野の終	了時点で確認試験	食を行なう。確認試験	にて70%未満の	皆は補習を行う。							
授業計画(授業)	単位)										
		主 題				授業内容			備考		
第1回	評論・解説・エッ	セイなど		文章の仕組みを理解	はな。						
第2回	評論・解説・エッ	セイなど		文章の仕組みを理解	詳する 。						
第3回	評論・解説・エッ	セイなど		文章の仕組みを理解	詳する 。						
第4回	評論・解説・エッ	セイなど		問いを解く技術をみり	こつける。						
第5回	評論・解説・エッ	セイなど		問いを解く技術をみり	こつける。						
第6回	評論・解説・エッ	セイなど		問いを解く技術をみにつける。							
第7回	広告・お知らせな	: Ł		全体をつかむ。							
第8回	広告・お知らせな	 こと		全体をつかむ。							
第9回	広告・お知らせな	 :ど		情報を探し出す。							
第10回	広告・お知らせな	: : ど		情報を探し出す。							
第11回	実戦問題			内容理解(中文)							
第12回	実戦問題			主張理解(長文)							
第13回	実戦問題			統合理解							
第14回	実戦問題			情報検索							
第15回	期末試験			期末試験							
成績評価方法											
単位認定 総合成成績点70%、提出	战績60点、出席率9 出物&授業態度点	90%以上 20%、出席点10%3	を換算して総合評価	重を行う 。							
		知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合	成績評価基準		
定期試験		0	0			0			秀 (S):100点~90点		
小テスト 宿題授業外L	∠ポート								優 (A):89点~80点 良 (B):79点~70点		
イロを イロを 授業態度	· w – L			0	0				可 (D):69点~70点		
発表・作品				Ŭ.	Ŭ.				不可 (E):59点以下		
演習											
出席											
担当教員					実務経験紹介						

科目名	キャリアデザインⅢ	単位数	1	学科	国際自動車整備科				
授業形態	講義·実習	対象学生	3年生	開設期	通期				
区分	必修	開設時期	通期	教員実務経験対象	有				
授業概要 (目的、目標とする資格・検定等)	経済環境の急速な変化のもと、職業教育・キャリア教育の必要性を理解させ、ビジネス能力を向上させる。								
授業の一般目標	職業観や勤労観と言った概念の形成を前提に、ビジネス常識・情報の活用などを身に付ける。								
受講条件	出席率90%以上								
事前学習について (テキスト・参考書等)	なし								
授業の到達目標									
□ 知識・理解の観点	1. 期待される社会人・職業人としての人間力を身に付ける。								
□ 思考・判断の観点	1. 自動車整備について自分の意見を論理的に述べることができる。								
□ 関心・意欲の観点	1. 自動車整備に関する関心を広げ、問題意識を高めることができる。								
□態度の観点	1. 受講を通して自動車整備士として必要な人間性を身に付ける。								
□ 技能・表現の観点	1. 自動車整備士として必要な整備技術と説明力を身に付ける。								
授業計画(全体)									

社会人 職業人に必要な常識や所作、言葉使いを学ぶ。

授業計画(授業単位)

技术計画(技术	単位)		
	主 題	授 業 内 容	備考
第1回	ビジネスとコミュニケーションの基本	キャリアと仕事へのアプローチ	
第2回	ビジネスとコミュニケーションの基本	仕事の基本となる8つの意識	
第3回	ビジネスとコミュニケーションの基本	コミュニケーションとビジネスマナーの基本	
第4回	ビジネスとコミュニケーションの基本	指示の受け方と報告、連絡・相談	
第5回	ビジネスとコミュニケーションの基本	話し方と聞き方のポイント	
第6回	ビジネスとコミュニケーションの基本	来客応対と訪問の基本マナー	
第7回	ビジネスとコミュニケーションの基本	会社関係での付き合い	
第8回	ビジネスとコミュニケーションの基本	仕事の取り組み方	
第9回	ビジネスとコミュニケーションの基本	ビジネス文章の基本	
第10回	ビジネスとコミュニケーションの基本	電話応対	
第11回	ビジネスとコミュニケーションの基本	データの読み方・まとめ方	
第12回	ビジネスとコミュニケーションの基本	情報収集とメディアの活用	
第13回	ビジネスとコミュニケーションの基本	会社を取り巻く環境と経済の基本	
第14回	ビジネスマナーの基本	一般常識問題	
第15回	ビジネスマナーの基本	一般常識問題	

成績評価方法

	知識•理解	思考·判断	関心·意欲	態度	技能·表現	その他	評価割合	成績評価基準
定期試験	0	0					70	秀(S):100点~90点
小テスト	0	0	0				15	優(A): 89点~80点
宿題授業外レポート							評価なし	良(B): 79点~70点
授業態度			0	0			15	可(D): 69点~60点
発表·作品							評価なし	不可(E):59点以下
演習							評価なし	
出席			0				欠格条件	
担当教員				実務経験紹介				